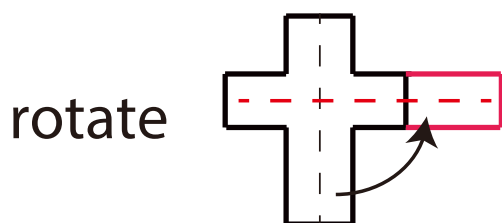
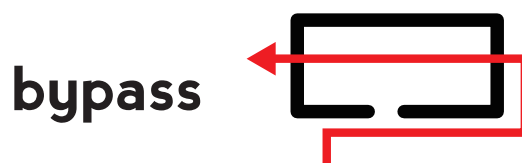


# Architecture in Time

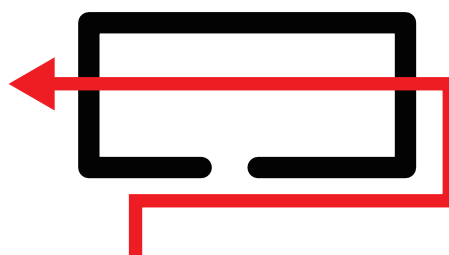


時間のなかの建築

西洋建築史スタディーズ

Koichi KATO & Yosuke KOMIYAMA

**bypass**



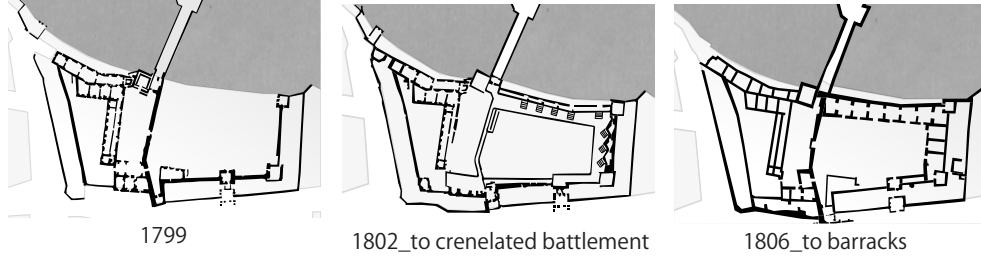
**layers**



### Castelvecchio in Time

1799~1806

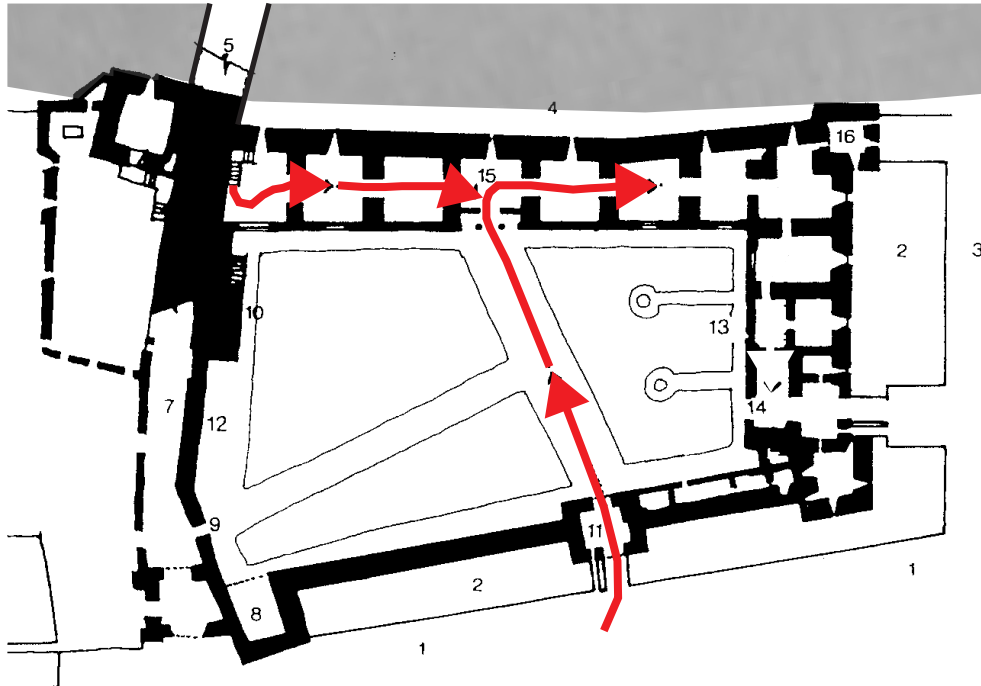
Napoleon's Destruction & Repair



WW1

1926

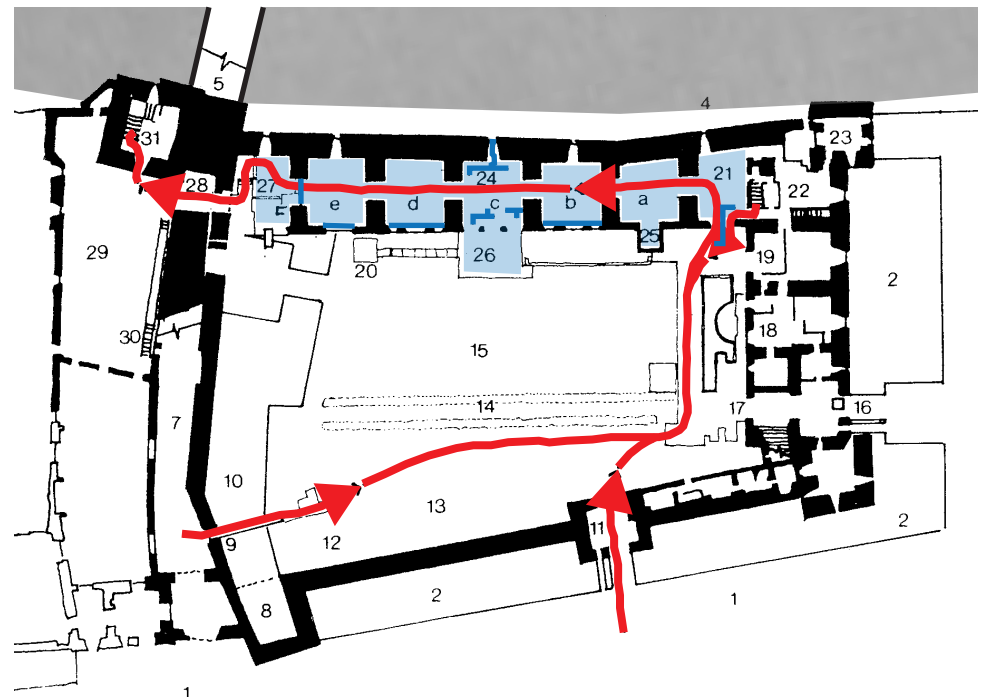
Avena's Renovation to museum



WW2

1959,1964

Scarpa's Renovation to museum



## What is inspired Carlo Scarpa?

カルロ・スカルパによってリノベーションされた美術館として知られるカステルヴェッキオは、12世紀ローマの Commune Wall を元に、地元の有力貴族がその居城となる部分を増築することで、14世紀に誕生した。

その後、貴族一族の衰退等によって廃墟化と修復を繰り返しながら使われていた。

最も古く史料に図面が残っているのは、前頁の通り、18世紀末から19世紀初頭にかけてのナポレオン侵攻の際の変化である。

ナポレオン侵攻時に完全に破壊された北面壁は、二度の修復により、兵舎として生まれ変わった。現存するカステルヴェッキオの展示室の原型ができたのはこの時である。

その後、1926年に美術館にコンバージョンされた後、戦災によって再び廃墟となっていたところをスカルパによってリノベーションなされた、というのが、変遷の概略である。

さて、18世紀の兵舎は、軍事施設の中でも極めて劣悪、最低限の住環境であり、空間としては、極めて単純な骨格をもつ。

スカルパは、美術館としてふさわしい空間体験を生み出すために、可能な限りの操作をし、空間を豊かにしている。

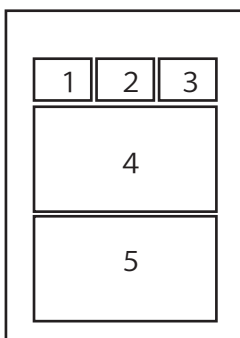
彼のリノベーションから、文字通り、単純な空間の活かし方を学ぶことができよう。

なお、スカルパの空間変移の手法については、東大助教の木内敏彦先生が博論で経験論的に精緻に分析されている。

そこで、私は、この建築を完成した美術館として分析するのではなく、「廃墟としての既存建物を見て美術館として修築することを考えたスカルパが、既存建物をどのように捉え、手を加えたのか」すなわち、「既存建物の何を拾い、何を捨てることで、豊かな空間を生み出したのか」という時間変化をふまえた観点から、カステルヴェッキオを分析する。

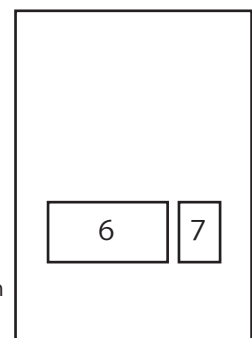


前頁



- 1 plan 1801
  - 2 plan 1802-1803
  - 3 plan 1806
  - 4 plan 1926
  - 5 plan 1964
- 図面出典：  
全て、  
Murphy, Richard. Carlo Scarpa & the  
Castelvecchio. London; Boston:  
Butterworth Architecture, 1990.  
1-3はトレース、4,5は加筆

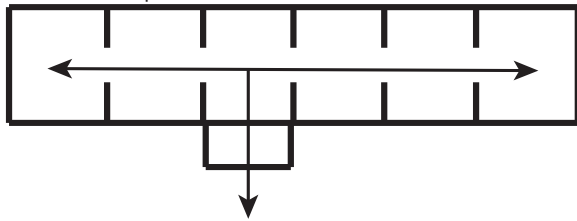
本頁



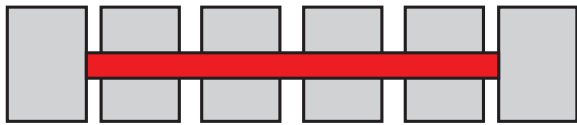
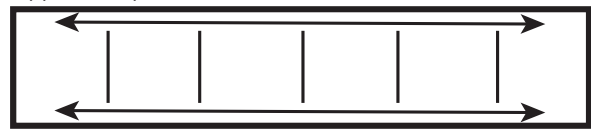
- 6 exterior
  - 7 interior
- 図面出典：  
全て、  
Schultz, Anne-Catrin. Carlo Scarpa  
Layers. London; Stuttgart: Czech  
Republic, 2010.

Plan & Traffic line

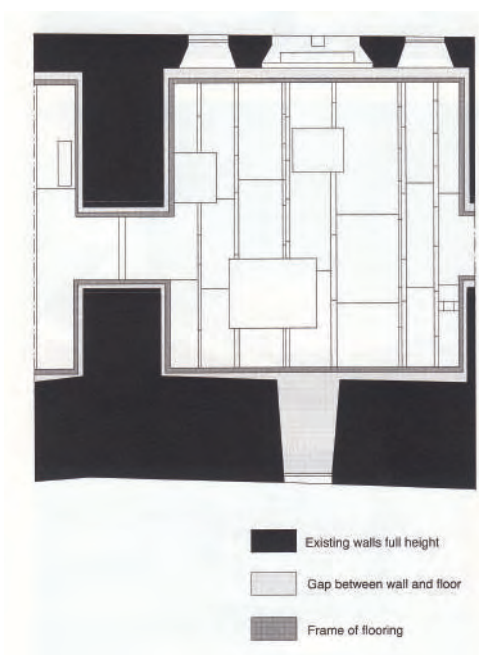
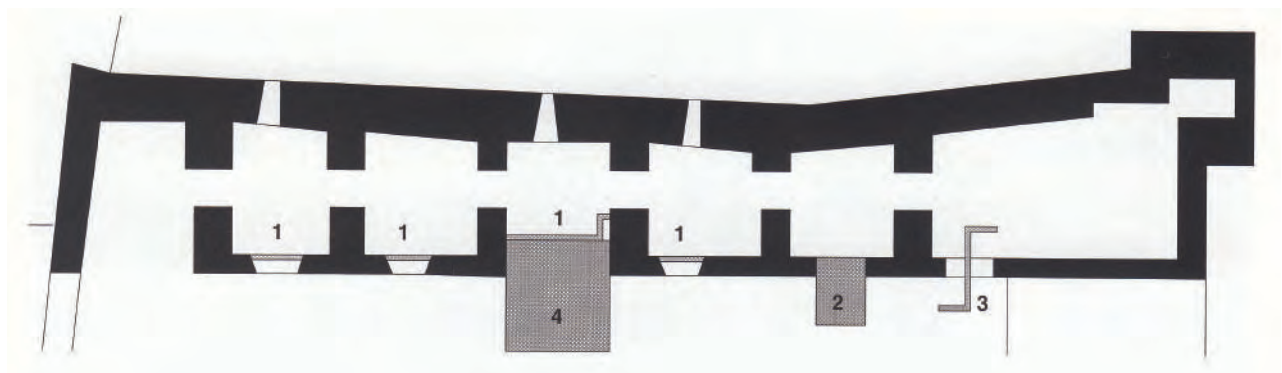
Ground-Floor plan



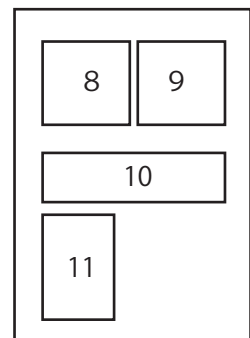
Upper-floor plan



Layers



8,9 Caserma, diagrams, floor-plan  
 10 Caserma, diagram, ground floor  
 11 Caserma, ground floor plan detail  
 図面出典：  
 10,11 は、  
 Schultz, Anne-Catrin. Carlo Scarpa  
 Layers. London; Stuttgart: Czech  
 Republic, 2010.



**lamination**



# Domus Aurea



(<http://romeonrome.com/2014/11/neros-golden-palace-is-open-again-2014/>)

ドムスアウレア 平面図

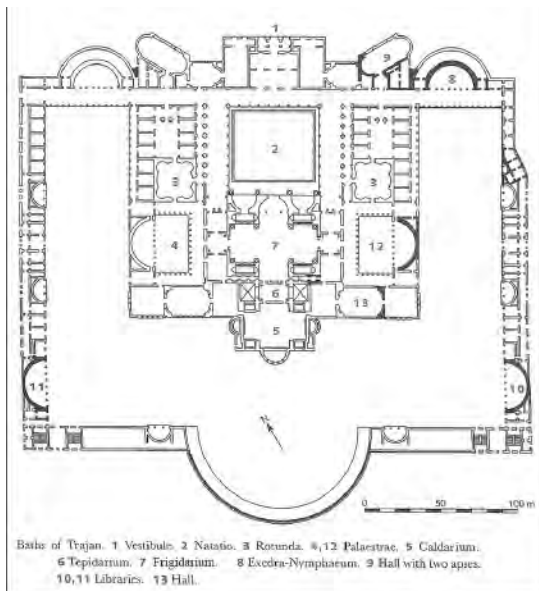


(<http://lottovolante.plnet.forumcommunity.net/?t=38433987>)

ドムスアウレア想像図

—ドムスアウレアは西暦64年のローマの大火の後、当時の皇帝ネロが建設した宮殿。当時ローマ市は非常に密集した状態であったにもかかわらず、エスキリヌスの丘（現エスキリーノの丘）の斜面にテラスを造り、人工池（現在コロッセオがある場所）とこれを囲む庭園を見下ろす、すばらしい景観を眺めることができた。西暦104年に宮殿は火事にあい、跡地にティトゥス浴場やコロッセオ、剣闘士養成所などが建てられて、最後に残った部分を覆い隠すようにトラヤヌス浴場が建てられた。ドムスアウレアはこのように急速に消滅したため、文献からしかその姿を想像することしかできない。現在はトラヤヌス浴場の地下に残された一部のみが残る。

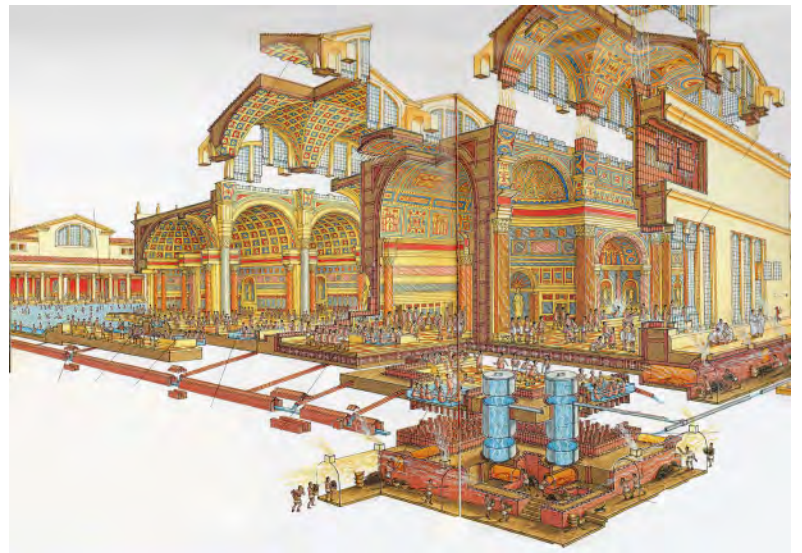
# Terme di Traiano



Baths of Trajan. 1 Vestibule. 2 Natatio. 3 Rotunda. 4, 12 Palaestrae. 5 Caldarium. 6 Tepidarium. 7 Frigidarium. 8 Exedra-Nymphaeum. 9 Hall with two apses. 10, 11 Libraries. 13 Hall.

(<http://www.flickrriver.com/photos/16472880@N06/8072883293/>)

トラヤヌス浴場 平面図



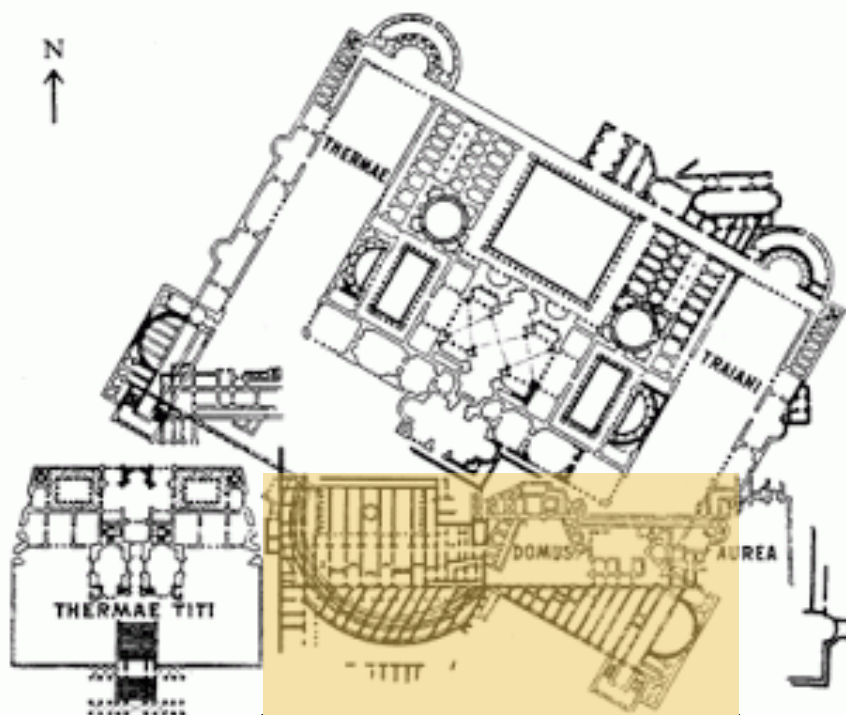
(図解 古代ローマ アンドルーソルウェー著)

トラヤヌス浴場

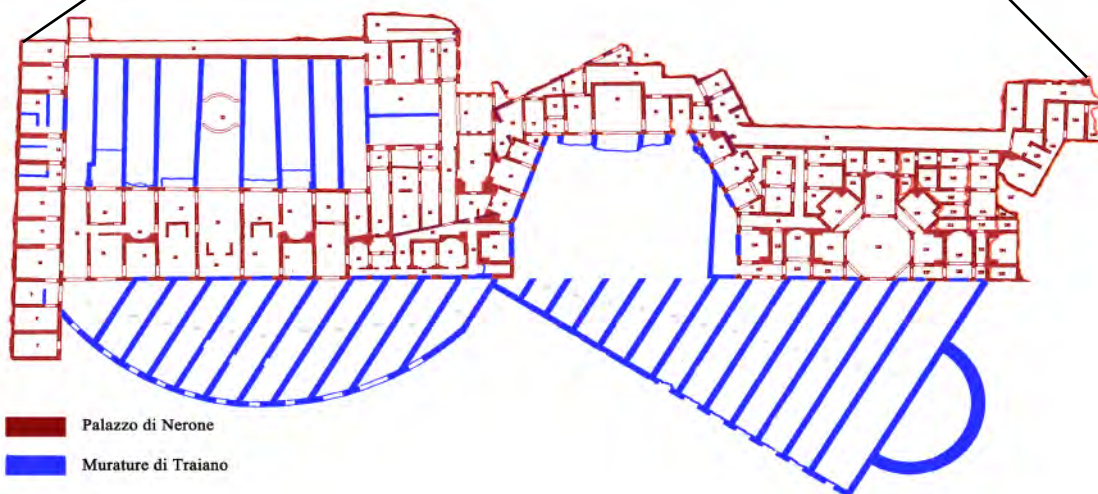
西暦109年、トラヤヌス帝がスパ施設をオープン。ドムスアウレアの上に温泉を構築し解体、または組み込んで（土で埋めたり、地下室としたり）、ネロの姿を圧迫した。つまり、ドムスアウレアはテルマエ複合施設の基盤となった。トラヤヌス浴場は浴場としての役割だけではなく、人々は運動をしたり、食べ物をつまんだり、マッサージを受けたり、仕事の打ち合わせをしたり、散歩したり、本を読んだり、ただゆっくりと体を休めたり、友達とおしゃべりしたりする場所だった。

# Domus Aurea & Terme di Traiano

Plan



([http://penelope.uchicago.edu/Thayer/E/Gazetteer/Places/Europe/Italy/Lazio/Roma/Rome/\\_Texts/PLATOP\\*/Thermae\\_Trajani.html](http://penelope.uchicago.edu/Thayer/E/Gazetteer/Places/Europe/Italy/Lazio/Roma/Rome/_Texts/PLATOP*/Thermae_Trajani.html))



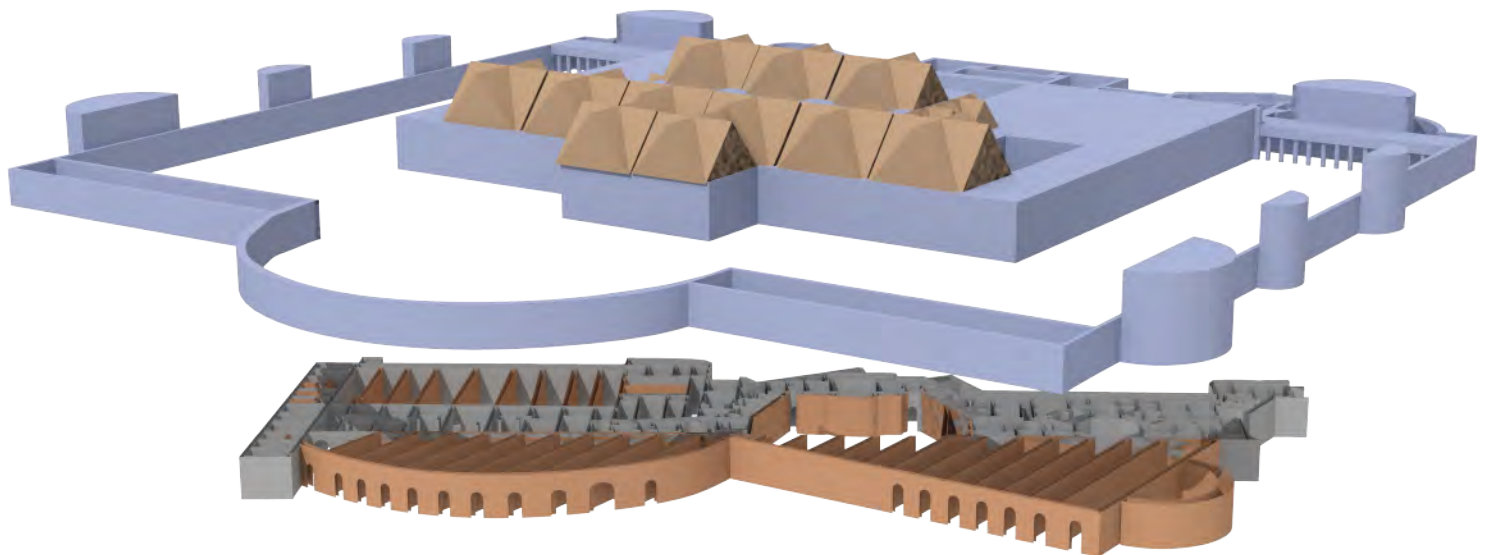
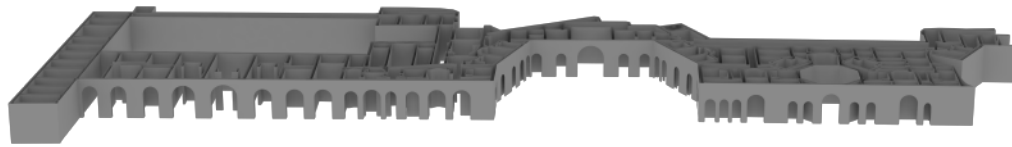
(<http://romeonrome.com/2014/11/neros-golden-palace-is-open-again-2014/>をもちに筆者作図)

## トラヤヌス浴場 地下平面図

トラヤヌス浴場に関するあらゆる文献を読み、図面などを読んだ結果、トラヤヌス浴場の基盤となる形で、ドムスアウレアは埋められたのではないかと推測される。ネロのドムスアウレアのファサードが南北方向に向いていたのに対して、トラヤヌス浴場は少しずれている。これは、採光と風通しを良くするためにこのような向きになったといわれている。



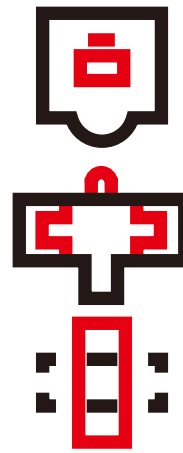
## Transition

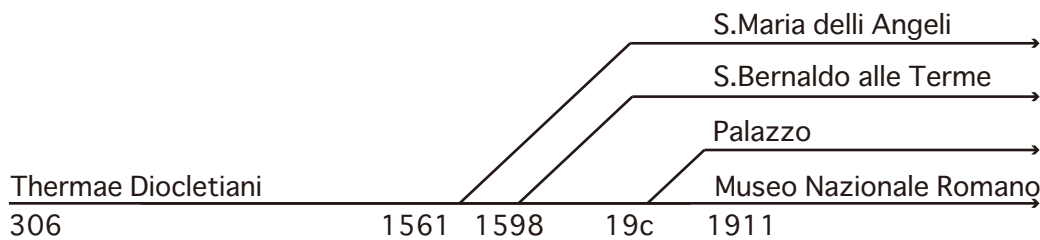


(illustration made by author)

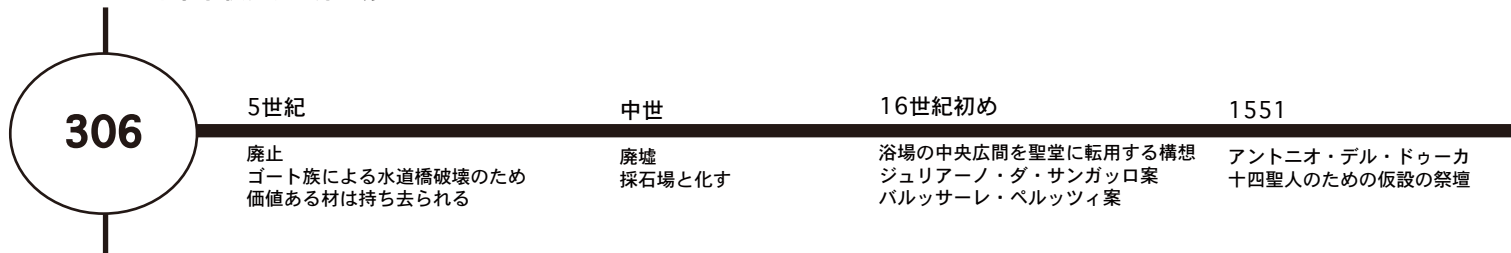
地下の部分は単純に埋められたというよりも、新たに耐力壁を入れて構造的に強くし、さらに地下室として残したような跡が見られる。更に、浴場では奴隷が働いていたということ、地下に働く場所があるということ。以上から、地下室は奴隷たちが出入りし、働く場所として使われていたのではないかと推測できる。

partial  
add  
turn

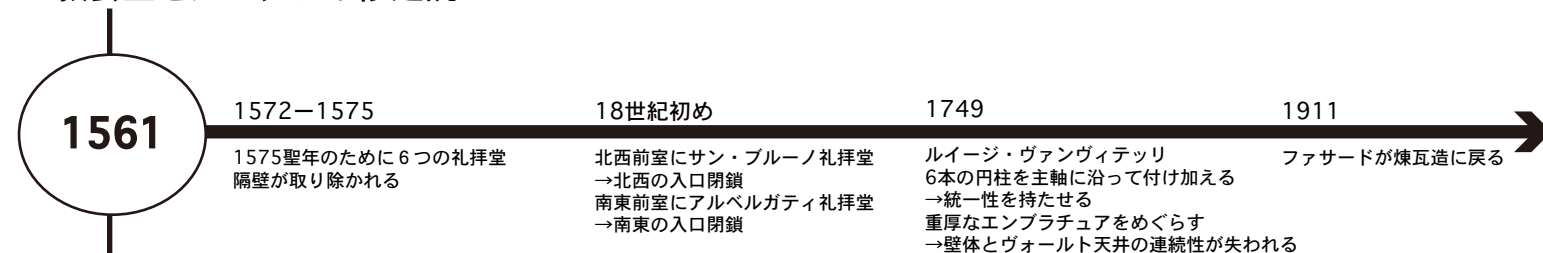




## ディオクレティアヌスの大浴場 ローマ帝国最大の浴場



## サンタ・マリア・デリ・アンジェリ聖堂 教会堂とカルテジオ修道院



# Plan1561

ミケランジェロ・ブオナローティ

—古代浴場跡を生かす最小限の操作—

1. 既存の壁を利用する

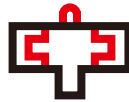
微温浴室 (TEPIDARIUM)→翼廊

冷浴室 (FRIGIDARUM)→回廊



2. 隔壁・周壁を加える

→内陣

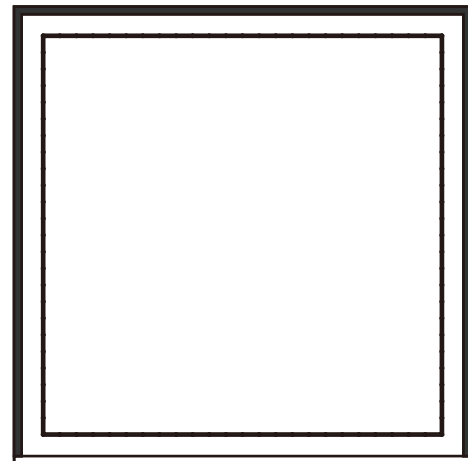


3. 窓に縦仕切りを加える

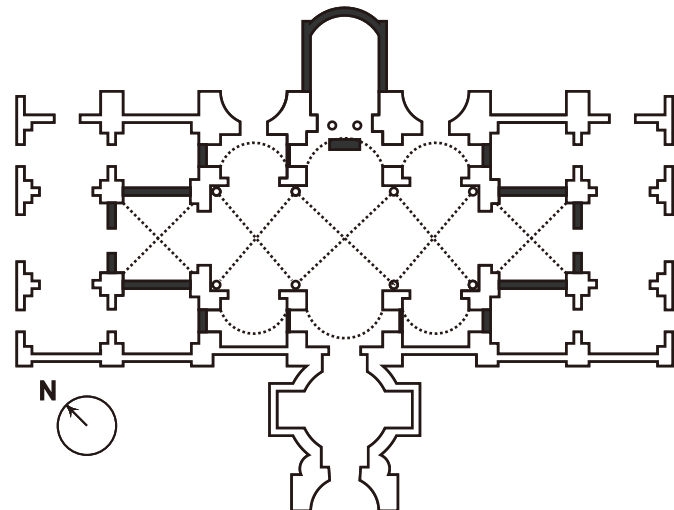
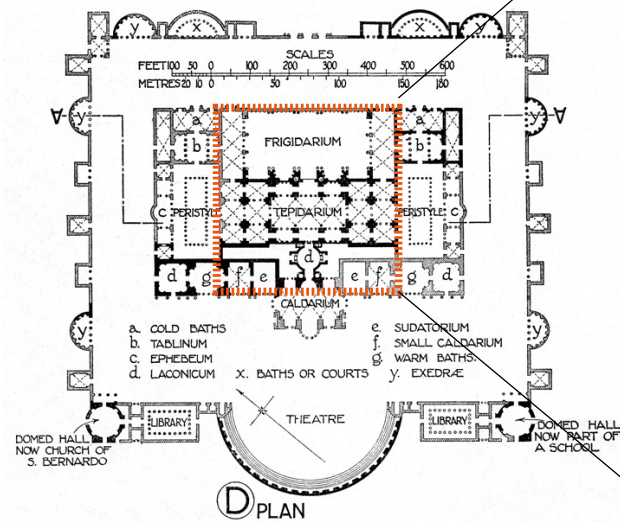
4. 内部を漆喰で仕上げる

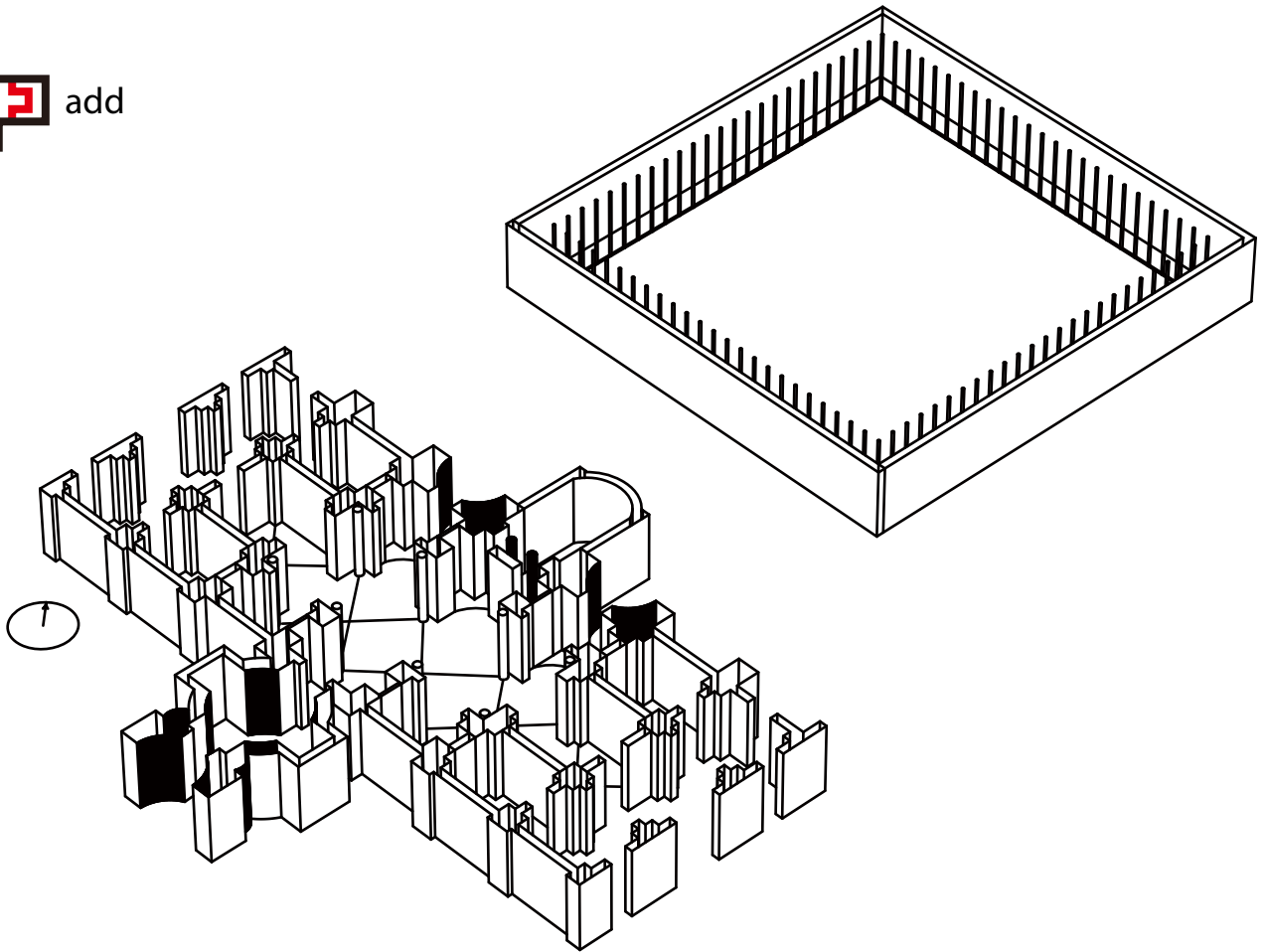
→古代の柱を引き立たせ、

壁体とヴォールト天井が一体となる

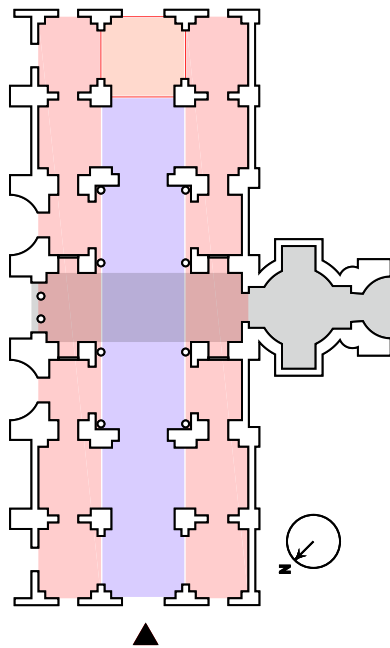


partial

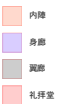
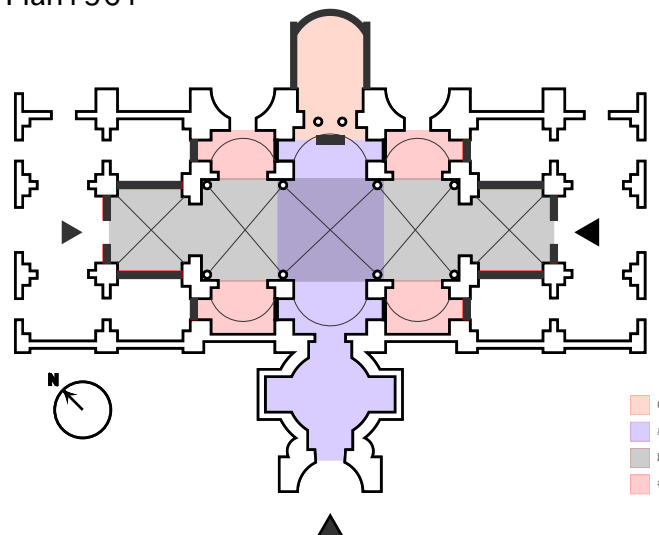




Plan1551

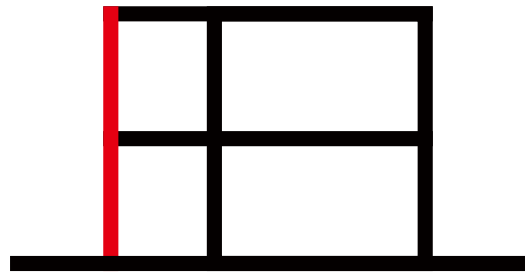


Plan1561

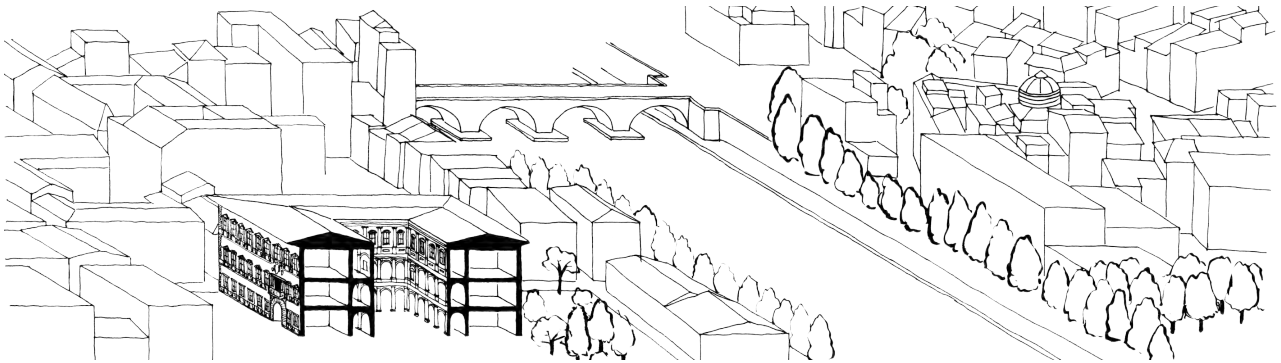


文献  
 ジェームズ・S・アッカーマン『ミケランジェロの建築』彰国社  
 シャルル・ド・トルナイ『ミケランジェロ』岩波書店  
 アレックスサンドロ・ノーヴァ『建築家ミケランジェロ』岩崎美術社  
 長尾重武『ミケランジェロのローマ』丸善  
 " THE HISTORY OF ARCHITECTURE "

**change  
surface**



# Palazzo Farnese



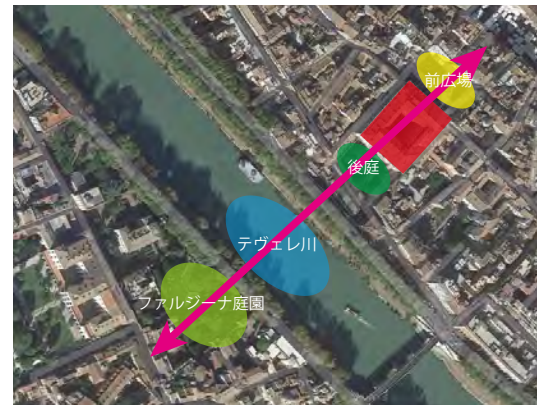
\*1

## Site



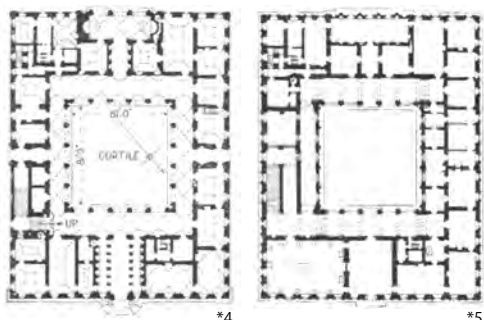
\*2

## Axis



\*3

## Plan



1F 平面図 (S=1:2000)

2F 平面図 (S=1:2000)

\*4

\*5

## History

- 1515 枢機卿ファルネーゼの命令でサンガッロ設計開始
- 1530 着工
- 1534 枢機卿が法皇に選ばれ、より象徴的なデザインを目的とした設計競技においてミケランジェロが勝利
- 1568 後翼部 1,2F に関してはミケランジェロの案が退けられ、ヴィニョーラの監督によって完成
- 1589 デッラ・ポルタが、3F と同階庭園側開廊を完成して竣工
- 19C 改修により後翼部 2F 中庭側のロジgiaが壁面によって埋められる。
- 現在 イタリアにおけるフランス大使館として使用

\*1 筆者作図

\*2,3 Google Mapを基に筆者作図

\*4,5 Dan Cruickshank, Sir Banister Fletcher and Andrew Saint, *Sir Banister Fletcher's A History of Architecture*

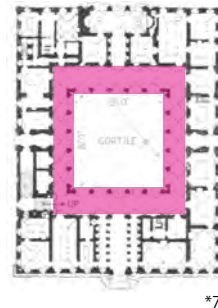
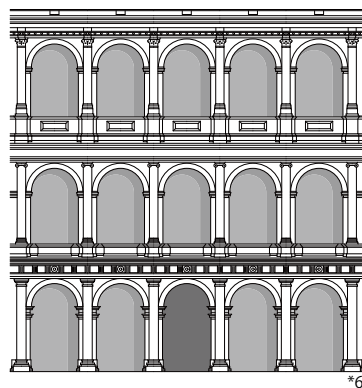
## ■ Court-Side Facade

設計者が代わるたびにデザインが変更されてきたが、特に顕著なのが後翼部の中庭側立面である。  
建築と中庭の境界が変化することによって、建築と中庭、さらには敷地周辺との関係性も様々に変化してきた。

### 1515 — Sangallo

#### ■ 3層ロτζア、屋内と中庭の中間領域

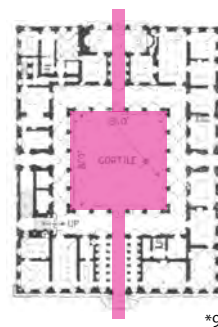
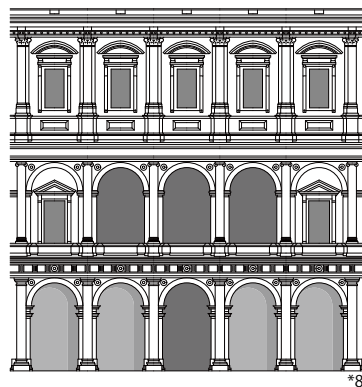
中庭を囲む四周は3層共に中庭に向かって吹き放たれたロτζアで構成されているため、  
中庭を取り囲む回廊は建築内部と中庭との中間領域となり、バッファゾーンとして機能する。



### 1534 — Michelangelo

#### ■ 中心軸による敷地周辺との関係性

1、2層目のロτζアの内、中心軸上にあるものは後方部まで視線が抜けている。  
これによりエントランス手前の広場、中庭、後庭、テヴェレ川対岸のファルジーナ庭園を関係づけている。



\*6 ピーター・マレー『図説世界建築史10 ルネサンス建築』桐敷真次郎 訳、本の友社 を参照に筆者作図

\*7,9 Dan Cruickshank, Sir Banister Fletcher and Andrew Saint, *Sir Banister Fletcher's A History of Architecture* を基に筆者作図

\*8 アレッサンドロ・ノーヴァ『建築家ミケランジェロ』日高健一郎、河辺泰宏、石川清 訳、岩崎美術社 を参照に筆者作図



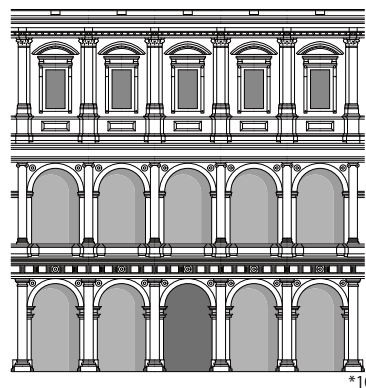
## ■ Court-Side Facade

設計者が代わるたびにデザインが変更されてきたが、特に顕著なのが後翼部の中庭側立面である。  
建築と中庭の境界が変化することによって、建築と中庭、さらには敷地周辺との関係性も様々に変化してきた。

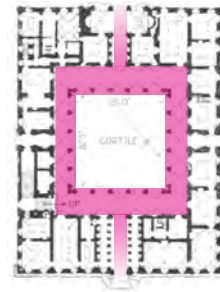
### 1568 — Vignola & della Porta

#### ■ サンガッロ、ミケランジェロの折衷案

1、2層目はサンガッロ案に見られるロτζィア、3層目はミケランジェロ案に見られる壁面によって構成される。  
ミケランジェロ案における中心を貫く軸性は弱まっている。



\*10

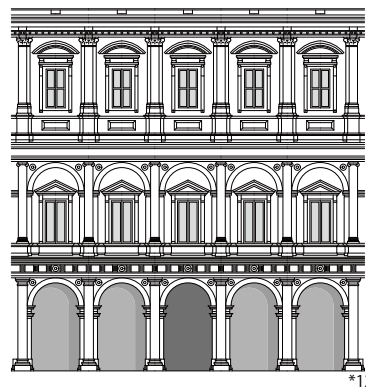


\*11

### 19c — repair

#### ■ 中庭の独立性

2層目のロτζィアはすべて壁面によってふさがれたため内部と中庭との関係性は弱まったが、  
逆に四方を壁面によって囲われた一辺 30m の立方空間として中庭の独立性が高まった。



\*12



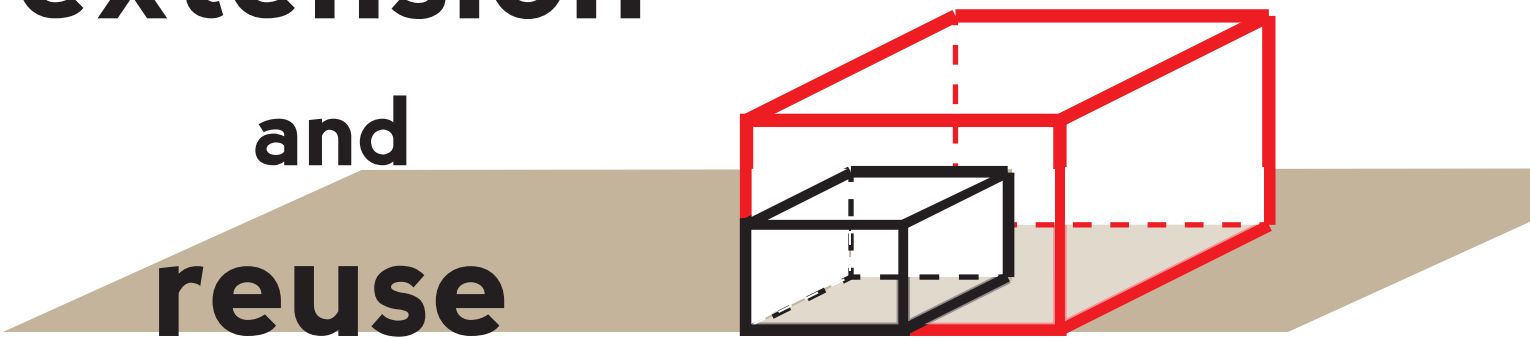
\*13

\*10 ジェームス・S・アッカーマン『ミケランジェロの建築』中森義宗 訳 を参照に筆者作図

\*11,13 Dan Cruickshank, Sir Banister Fletcher and Andrew Saint, *Sir Banister Fletcher's A History of Architecture* を基に筆者作図

\*12 現状写真を参照に筆者作図

**extension**  
**and**  
**reuse**



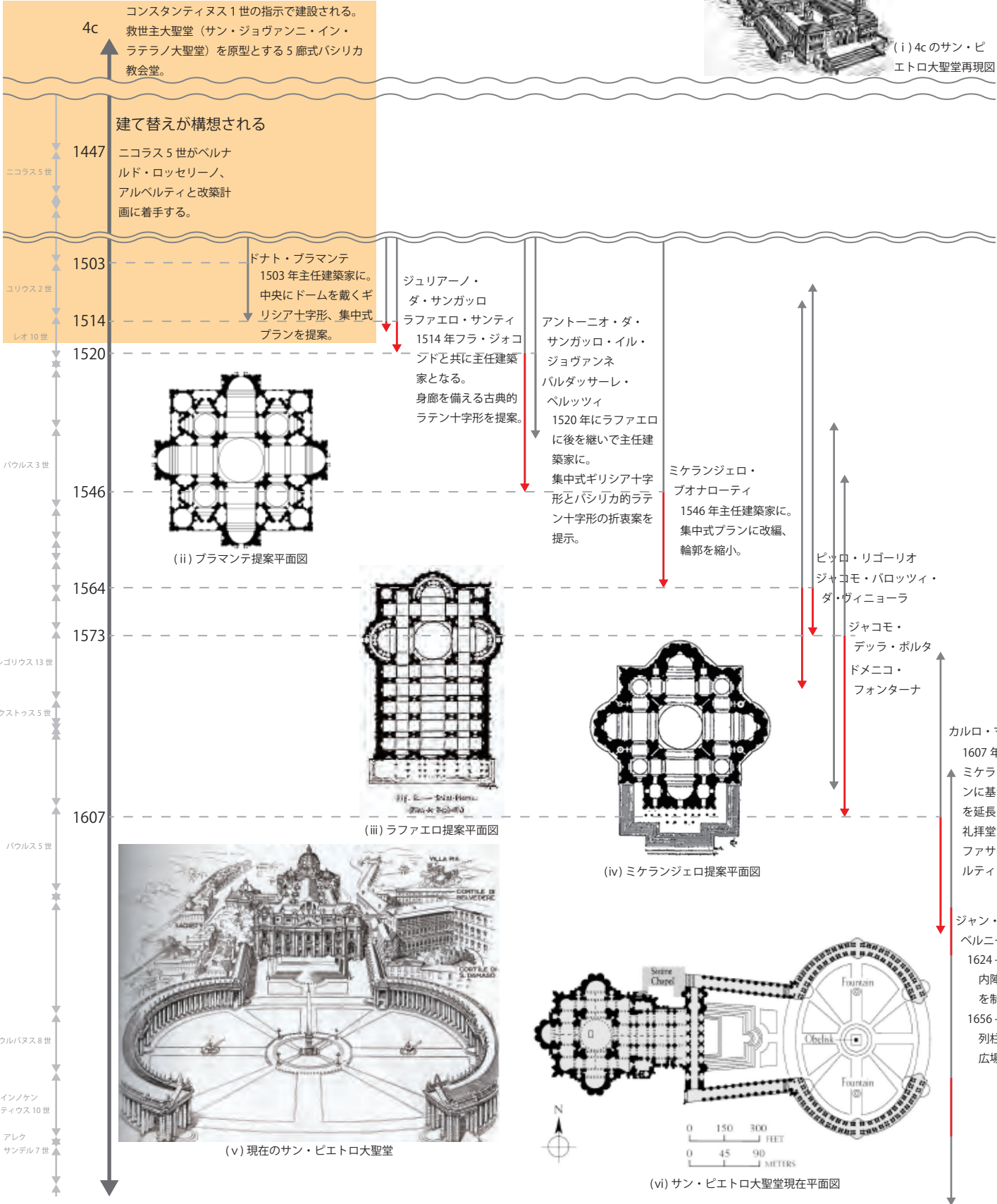
# サン・ピエトロ大聖堂

## Basilica di San Pietro in Vaticano

### 建設の沿革



(i) 4cのサン・ピエトロ大聖堂再現図

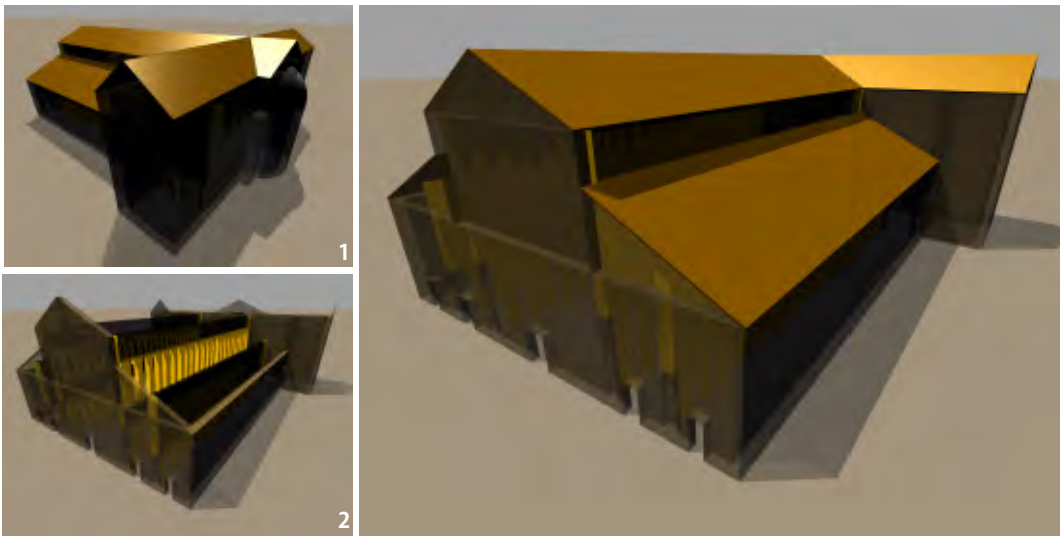


(参照資料等)

(i)~(iv) <http://rometour.org/st-peters-basilica-basilica-di-san-pietro.html> (v) "A History of Architecture" by Sir Banister (vi) <http://imgbuddy.com/piazza-san-pietro-plan.asp>

サン・ピエトロ大聖堂

Basilica di San Pietro in Vaticano



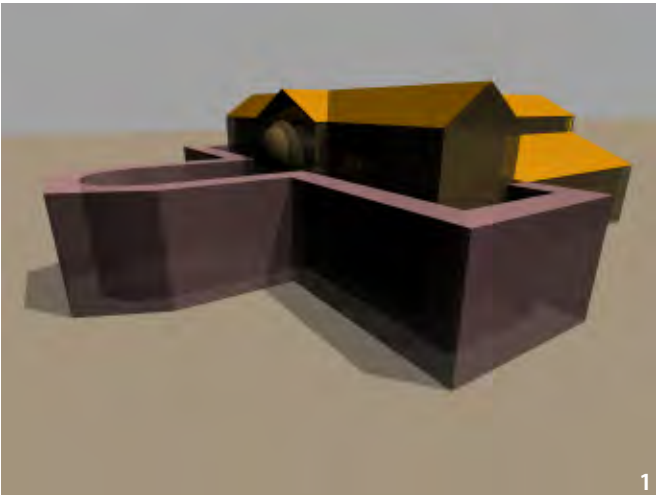
4th century  
Constantinus I

1: アプス側からみた様子。2: 屋根を外して列柱を露わにした様子。3: 4世紀の創建時の再現図。アトリウム等は省略。

サン・ピエトロ大聖堂はコンスタンティヌス大帝によって使徒ペテロの墓所を祀る聖堂としてヴァチカンに建設された。896年には救世主大聖堂（サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂）から主教座教会堂の地位を得るも、その後はしばらく放置されることになってしまう。

形態としては救世主大聖堂を原型とするもので5廊式バシリカである。完成当時にはすでにヨーロッパにおける最大の教会堂であった。建築としては初期キリスト教様式の代表作と言える。教会堂建築はここから交叉廊が左右に伸び延び、縦方向にも延長されることでラテン十字形・ギリシア十字形へと発展する。

A.D.  
1451  
Pope Nicholas V



1: ニコラス5世の立案によるサン・ピエトロ大聖堂改修計画によって建てられた後陣の様子。工事は途中でしか進められなかった。2: ニコラス5世までの改修を受けたサン・ピエトロ大聖堂の基礎の様子。(仮想)



1447年に教皇へと即位したニコラス5世は、その治世下においてローマの復興を目指していた。そしてその計画の中には当時老朽化が激しかったサン・ピエトロ大聖堂の改築が含まれていたのだ。ニコラス5世はベルナルド・ロッセルイーノとレオン・バッティスタ・アルベルティと共にその計画を立案した。

しかしその改築工事は途中で終わってしまうこととなる。原因としてはニコラス5世の在位が1455年で終了してしまったことなどがあげられる。結果、初期キリスト教時代のアプスに代わる背後に延びる大きな後陣が途中で立ち上がったところで工事は終了してしまい、その後再び放置されることとなる。

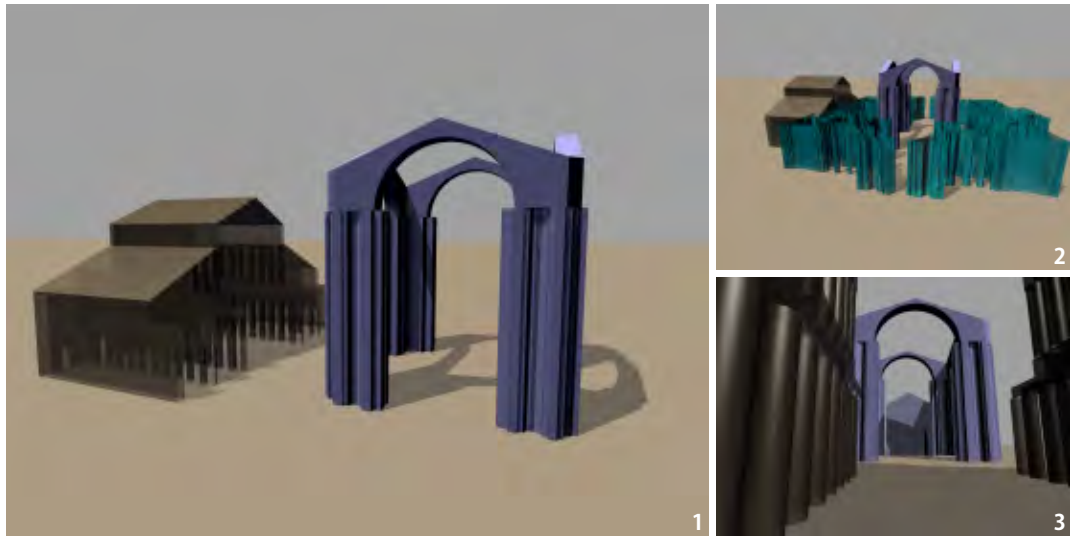
# サン・ピエトロ大聖堂

## Basilica di San Pietro in Vaticano

A.D.  
1503~

Donato Bramante

1: ブラムンテの設計図に沿った工事の状態。工事は途中で、旧聖堂は一部が取り壊された状態で残っていることがうかがえる。2: ブラムンテの図面通りに立ち上がったときの予想図。3: 一部残された旧聖堂身廊部からみた様子。応急的につくられた覆屋を見ることができる。



二度の放置を経たサン・ピエトロ大聖堂の改築計画は、1503年に即位したユリウス2世により再び動き出すこととなる。彼はブラマンテを主任建築家にすえた。ブラマンテはそこからいくつかの平面図案を描き残しているが一番有名なのは「羊皮紙のプラン」Piano di Pergamenaであろう。

どの図面に沿って建設が始まったのかは定かにはなっていないが、いずれにしろこれも工事は途中で終わってしまう。交叉部のドームを支える柱まで建てたところで構造的欠陥を指摘されたのだ。そのドームなしの場所でミサを行うために応急的な覆屋がつけられたことがスケッチからうかがえる。

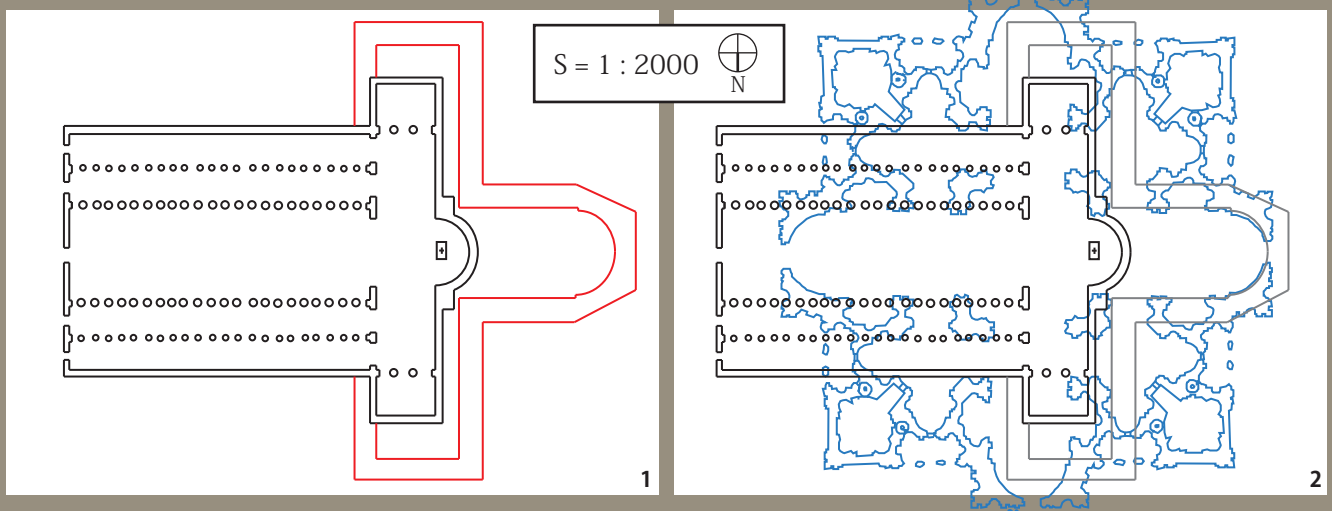
extension  
and  
reuse

### 数あるリノベーションという手段の中の 拡大再利用という手法

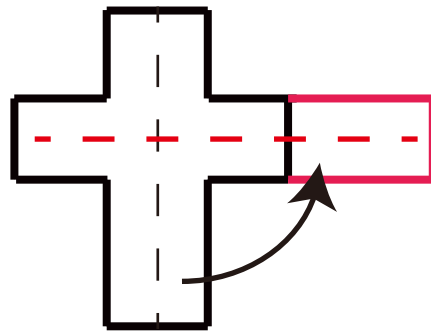
以上のサン・ピエトロ大聖堂の変遷をリノベーションという観点から見たとき、その図面を重ね合わせることである一つの手法が浮かび上がってくる。下図面を見るとどちらも旧聖堂の交叉廊や後陣の壁位置を踏襲しようとした様子が見えてくる。建物を改修・拡大しようとしたとき、壁や基礎の一部を再利用するという手法を教えてくれる。

1: 4cの建設時における図面(黒)とルネサンス初期のニコラス5世による後陣の図面(赤)を重ねた様子。  
2: 1の図面にさらにブラマンテによる提案図面(青)を重ね合わせたもの。

拡大再利用という手段



rotate



# Duomo di Siena (シエナ大聖堂)

所在地：シエナ、イタリア

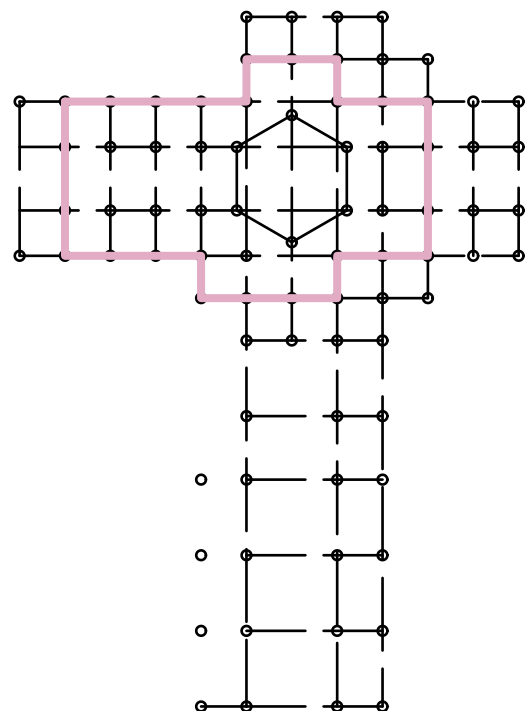
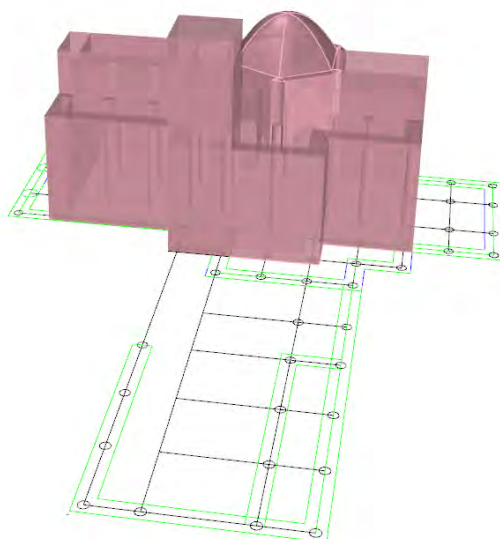
- ・イタリアンゴシック様式の教会で、**軸線を変更した**増築景観（未完）が特徴的。
- ・当時は教会は愛郷心の象徴であり、**市の威信**がかかっていた。他の地域の教会に対抗して増築が計画されたが、**無理のある計画**に疫病の流行や資金難が重なり計画は完成しなかった。



<http://notjustanotherdolcevita.com/2014/07/14/siena-a-birds-eye-view/> より

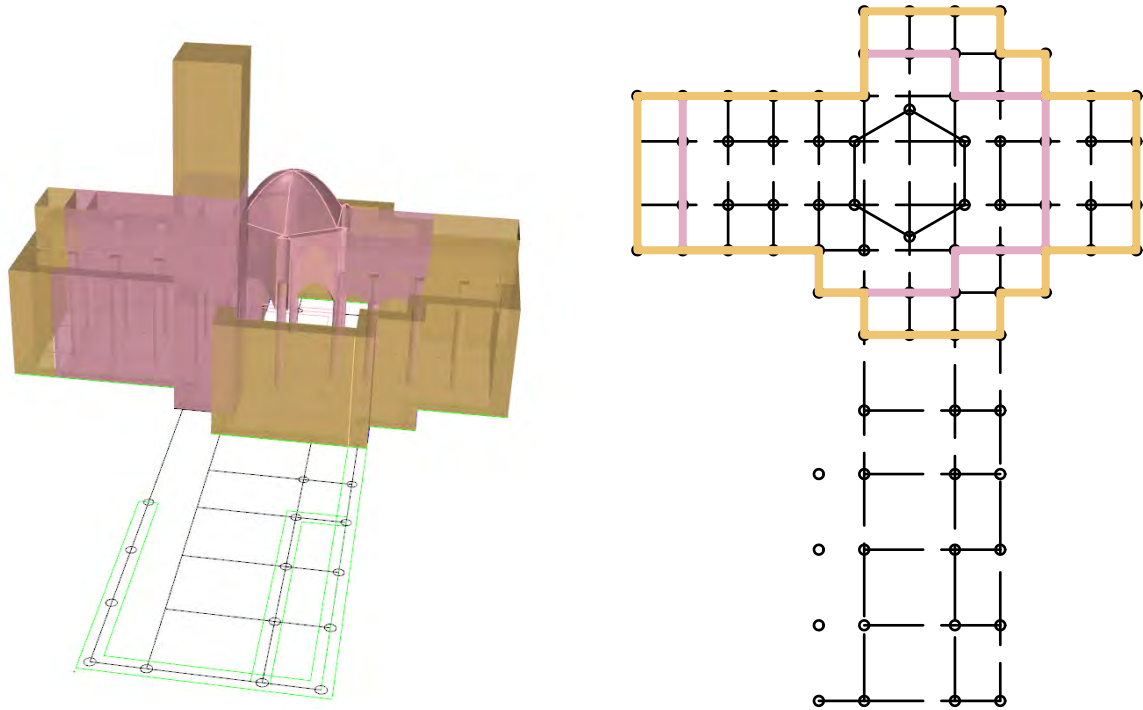
## 増築の履歴

①1220年代～1264年 新しい大聖堂の建設



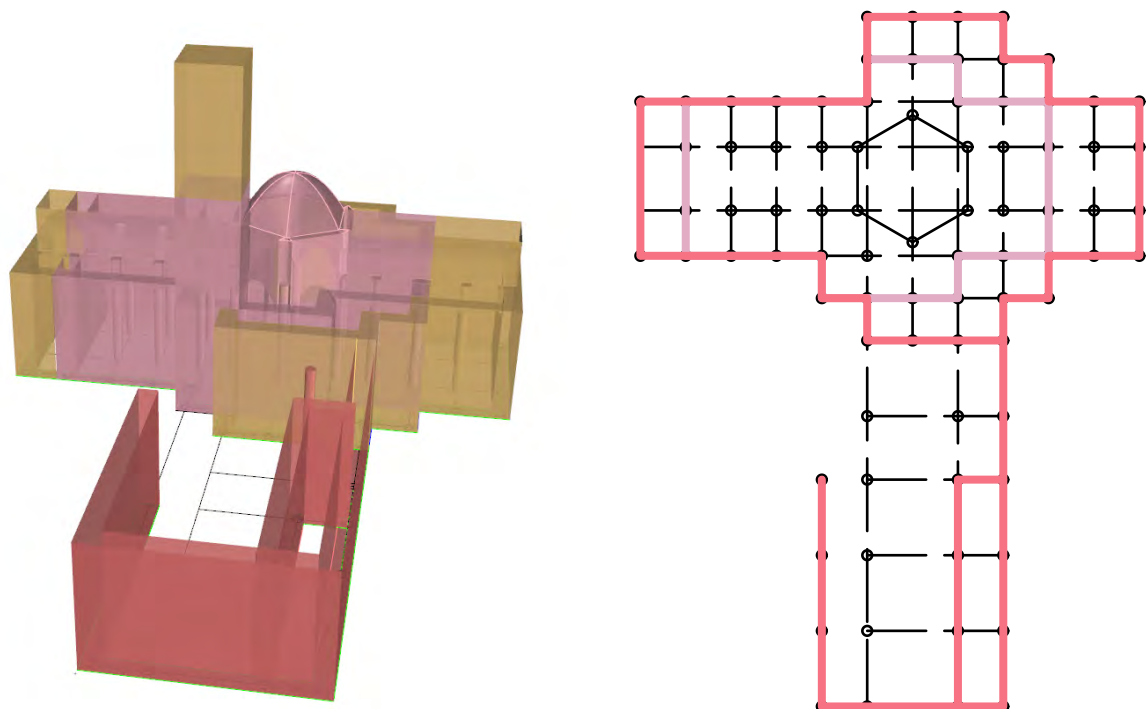
## ②～1339年 翼廊と聖歌隊席の増築

翼廊と聖歌隊席が拡張され、ひと回り大きな聖堂となった。また、鐘楼も高くなり、贅沢な装飾となった。



## ③～1355年 軸線を変更しての増築計画（中止） 現在の状態

②の部分は現在も大聖堂として使用されている。③の増築部分は、室内になっている一角はミュージアムとして使用され、屋外部分は売店があったり、駐車場になったりしている。

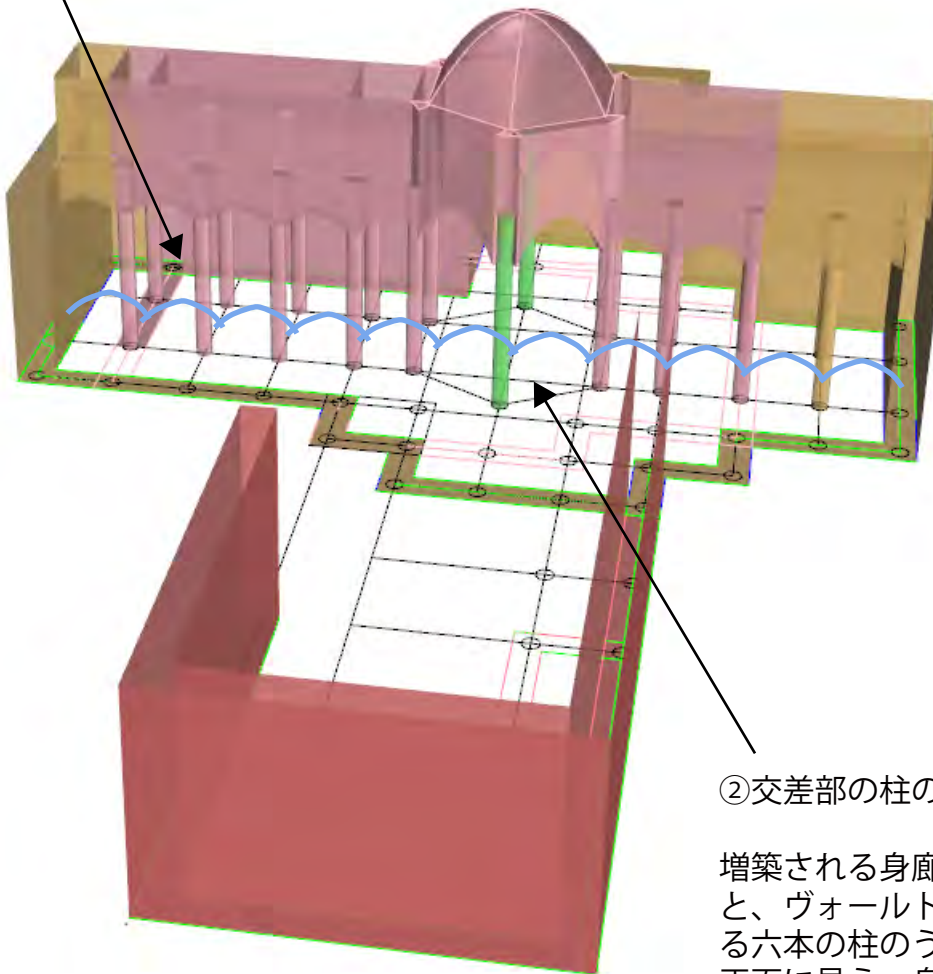




## 失敗の要因

### ①翼廊の非対称性

増築計画での翼廊は、交差路の中心から左（西）に6スパン、右（東）に5スパンの長さとなっていて、非対称である。大聖堂は丘の上に建っており、東側は斜面となっているためこれ以上の増築が難しかった。



### ②交差部の柱の処理

増築される身廊のから見ると、ヴォールト屋根を支える六本の柱のうち二本が真正面に見え、身廊と交差路の関係が聖堂として不適切になる。しかし、この二本の柱を取り除くことは構造上無理があった。

All illustrations made by Masuda Fumika

#### References:

"A History of Architecture" by Sir Banister Flight Fletcher

"Building in Time: From Giotto to Alberti and Modern Oblivion" by Marvin Trachtenberg

"聖母の都市シエナー中世イタリアの都市国家と美術" 石鍋真澄著



## ■ルーヴル美術館

ルーヴル美術館の前身は、フランス王フィリップ2世が12世紀に、もともと要塞として建設したルーヴル城（ルーヴル宮殿）である。現在の建物にも要塞として使用されていた当時の面影が一部残っているが、幾度となく増改築が繰り返されて、現在のルーヴル宮殿の建物へと姿を変えたのだ。世界的に有名なこの美術館が、どのような変化を遂げてきたのか、以下に述べる。



図1 シャルル5世のルーヴル城  
『ペリー公のいとも豪華なる時祷書』より

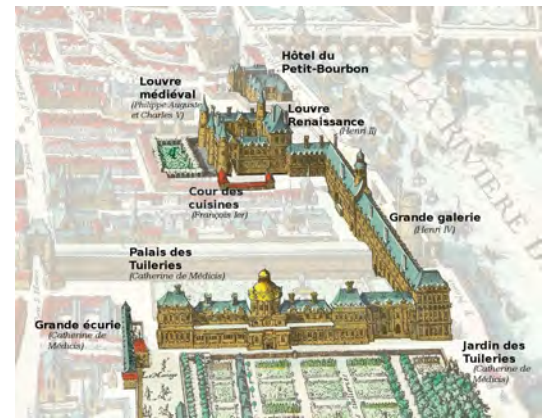


図1 パリの地図(1615年)  
Wikipedia

## ■回廊の効果

王妃カトリーヌ・ド・メディシスの下建設されたテュイルリー宮殿とクール・カレを繋げるために翼廊が建設されたわけだが、ここで「回廊」「翼廊」がもたらす効果について考える。

●ルネサンスの回廊建築においては、回廊の役割として以下のようなことが挙げられている。

- ①精神の修養と瞑想の場
- ②学問を行う場
- ③自然と共存する場所
- ④自分の心を見る場であり、自分を忘れる場

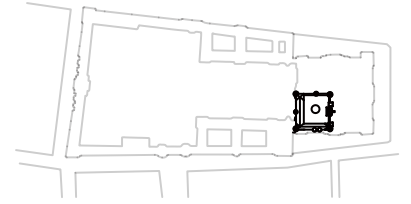
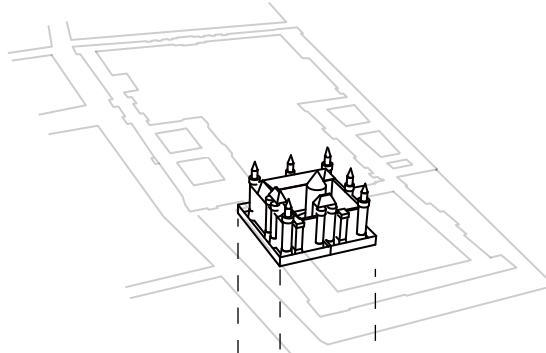
→回廊の歩廊と中庭が「内と外」の空間にそれぞれにイメージをもたせるようになるため、「内と外」両サイドからの景観が重視されるようになったといえる。

●ナイチンゲールが提案した病院の建築計画において、翼廊（パビリオン）を用いたものもあった。感染症を防ぐという目的を果たすのにパビリオン式病院が良い理由として以下のような利点がある。

1. 自然換気が容易に、かつ完全にできる病棟構造であること
2. 看護面からみて、監督指導が容易にできること
3. 患者の規律が、守られやすい病棟であること
4. 建築上および管理上、費用が少なくてすむこと

# 01

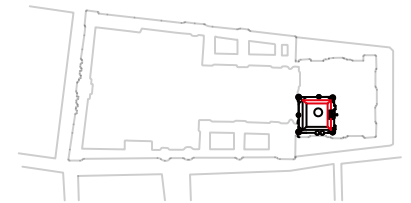
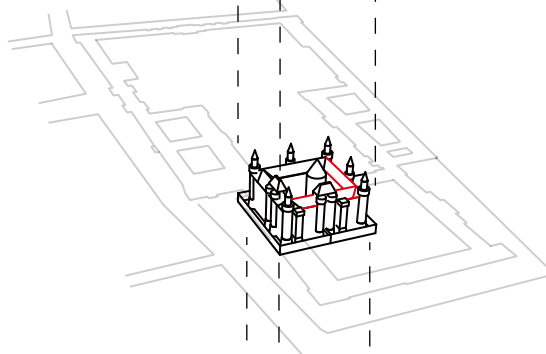
1190\_phillip-auguste



東側と北側の増築。

# 02

1364\_charles V

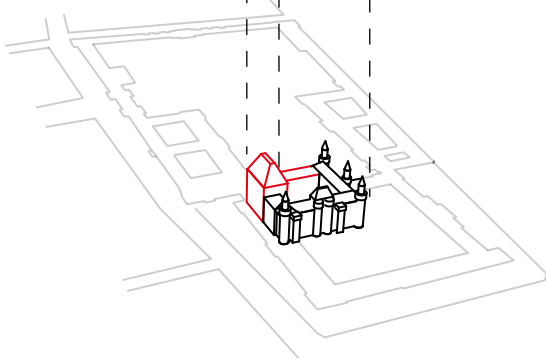


南側と西側の建て替え。  
シャルル5世のルーヴル城を残しつつ、L字型に建て替えが行われる。

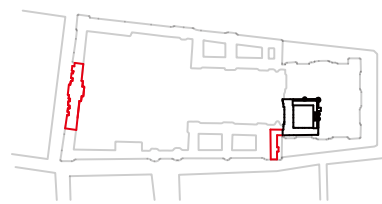
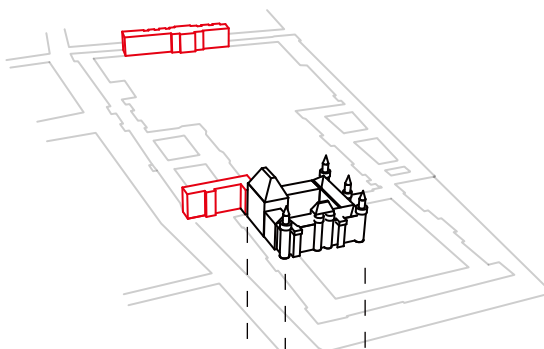
城の周りの堀が埋められる。  
この地下部は、今でも現存しルーヴル城の城壁が残る唯一の場所である。

# 03

1549\_henri II

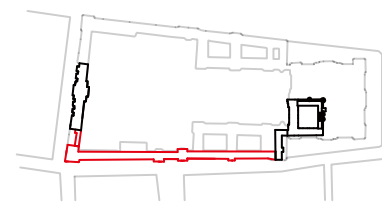
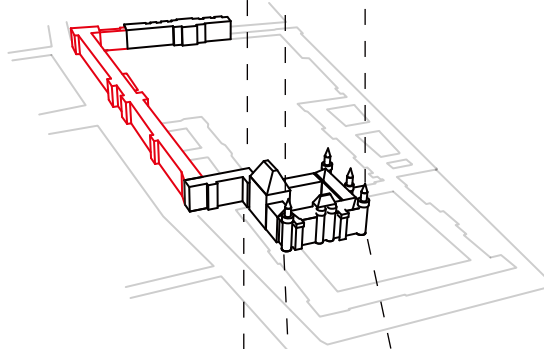


04  
1572\_catherine medici



ルーヴルとテュイルリーを繋ぐ。  
 セーヌ河に沿ってルーヴルと西のテュイルリー宮殿を、長大な回廊で直接つなぐ。  
 現在の「Grande Galerie(大展示室)」

05  
1610\_henri IV



クール・カレの拡張。  
 クール・カレ(方形中庭)の拡張。旧ルーヴル城の部分を4倍の面積に広げる。

06  
1660\_louis XIV

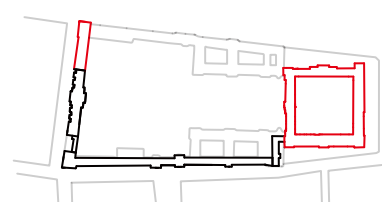
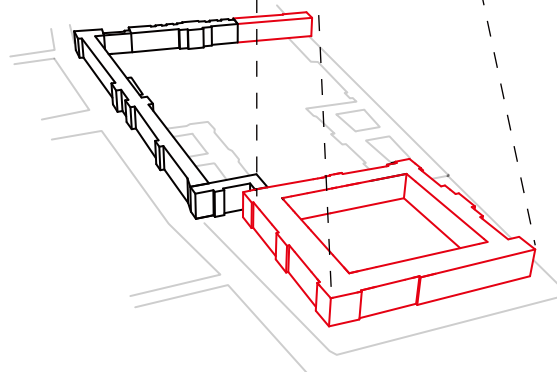
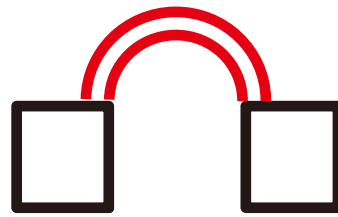


図4 ルーヴル美術館の変化  
 illustrations made by author

**cover**



Aachen Palace by Odo of Metz

■History of Aachen Palace

アーヘン大聖堂は、創建当時から19世紀に至るまで、増改築を繰り返してきた。(右図参照)

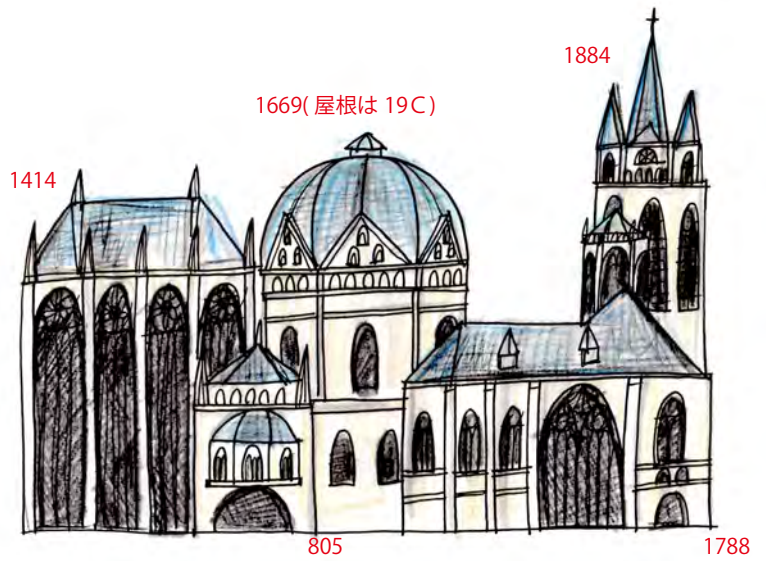
■Charlemagne and Justinianus

ユスティニアヌス帝によるサン=ヴィターレ大聖堂とカール大帝によるアーヘン大聖堂は、

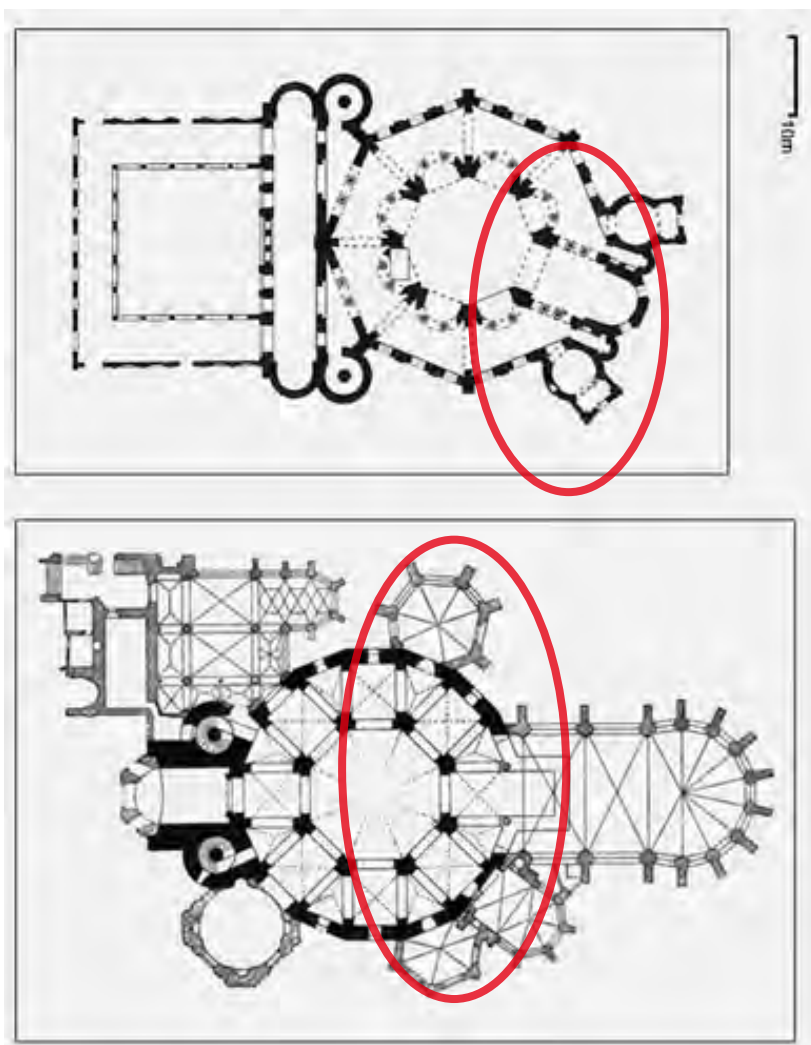
- ・八角形の造形
- ・ファサードの2つの塔
- ・東ローマ風の内装

からも大変よく似ていることが伺える。

カール大帝はサン=ヴィターレ大聖堂を模倣したり、ビザンチン文化を取り入れることによってユスティニアヌス帝の権威に自身を並べようとしていたに違いない。



イラスト：山田作成



△サン=ヴィターレ大聖堂(上)とアーヘン大聖堂(下)



## How Aachen Palace was reconstructed



### ■屋根部分

シンプルな八角形の屋根から八角形が二重にかかる複雑なかたちに

### ■回廊部分

外壁部分を増築し屋根部分が回廊に

模型: 山田作成

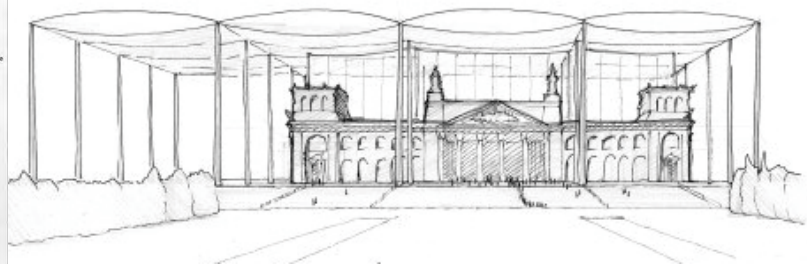
## Conclusion

構造体を一切変えずに屋根の改修及び回廊の増設を行っているが、これによってオリジナルプランにおけるシンプルな八角形の屋根は、二重の八角形を重ねた複雑かつ美しい屋根に生まれ変わり、かつ増築された回廊によって人が聖堂の3階部分からアーヘンの街を見渡すことができるようになったのである。

カール大帝はユスティニアヌス帝の権威を目指しプランや東ローマ的内装によって近づこうと試みたが、彼の生きた時代よりもはるか先の19世紀になって改築が行われ、アーヘン大聖堂は今や街のランドマークとしての役割を果たしている。これは当初の建設に関わったものの信念がそのはるか後世、最低限の改装によって果たされたという好例であると言える。

## Reichstag by Norman Foster

### History of Reichstag



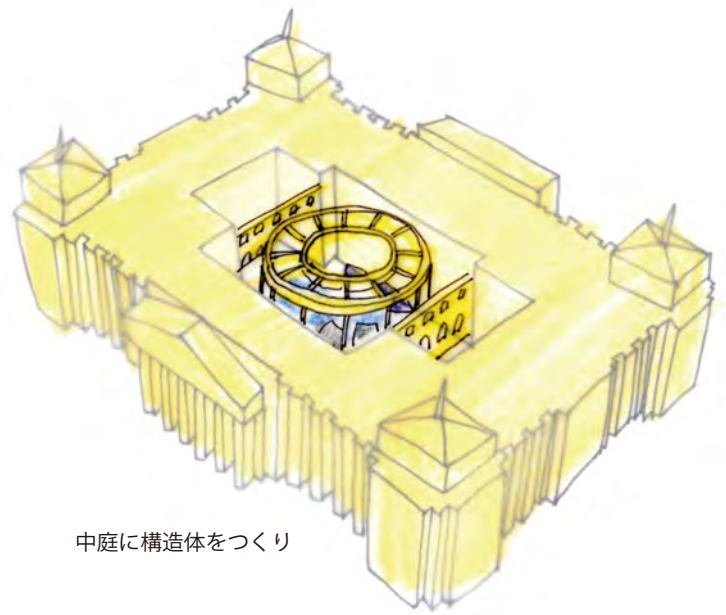
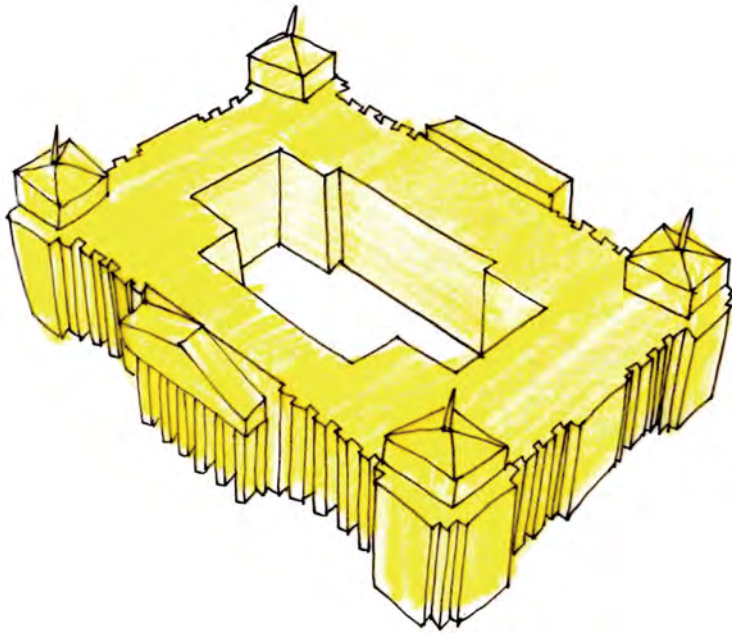
△フォスターによる当初の案

[http://designboom.com/weblog/section.php?SECTION\\_PK=&start=7704&num\\_record\\_tot=50000](http://designboom.com/weblog/section.php?SECTION_PK=&start=7704&num_record_tot=50000)

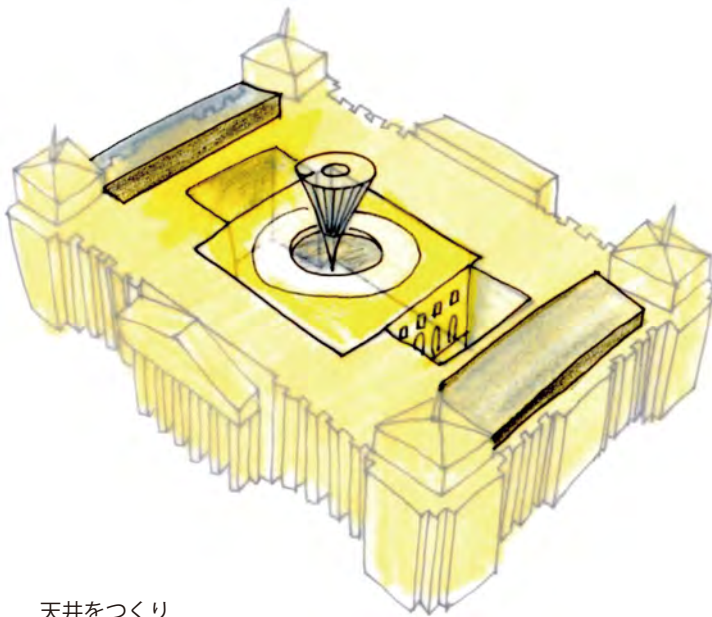
<https://architectureinberlin.wordpress.com/2008/03/02/critical-of-reconstruction/>



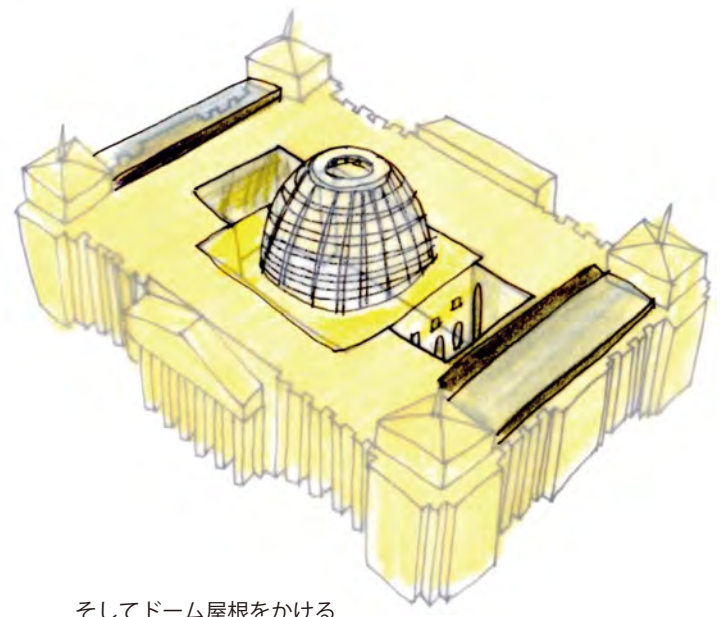
## ■How Reichstag was reconstructed



中庭に構造体をつくり



天井をつくり



そしてドーム屋根をかける

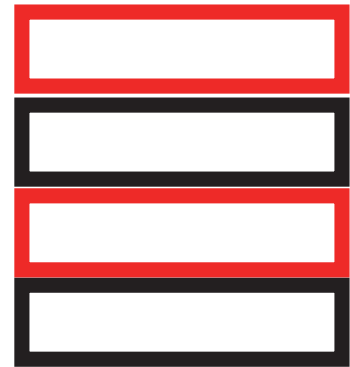
イラスト:山田作成

## ■Conclusion

フォスターの国会議事堂の事例を見てみると、かつての焼失前のドーム屋根を復元したかのようなデザインだが、素材や内部の構造及び外観の上では異なっており、過去の状態をイメージさせつつも新しいものへと生まれ変わっている。

また、当初の議事堂全体に屋根をかけてしまうという斬新な案は、簡単ながら既存建築の周囲や内部に中庭空間を生むという面白い事例である。

# ACCUMULATION



## 0. Vincennes castle

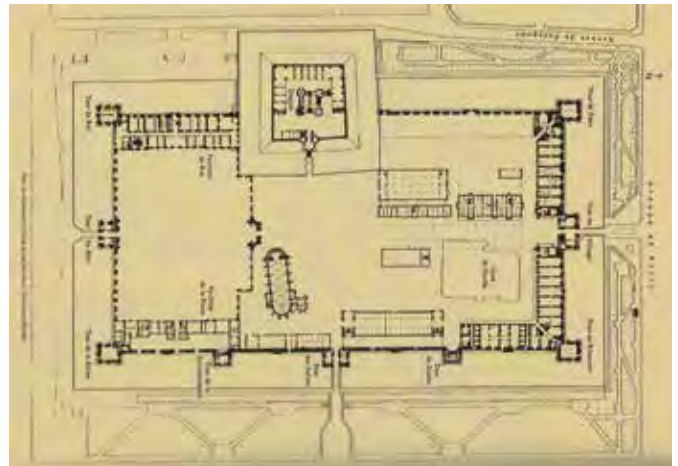


## 1. 歴史



ビンセンヌの城は、パリの東にある城でルイ7世によって12世紀頃ビンセンヌ森に建てられた。元々はビンセンヌ森のなわばりを利用するための小屋の用途で建てられたのに、王の居所の用途として使われるようになり、姿を徐々に変わっていった。14世紀には大規模な工事が開始され、既存の姿とは大きく変わることになるが、高い塔の形状を持つ一般的な中世の城の姿に変化する。防御的な用途であるに非常に高い、高さ小さな窓を持っており、15世紀に塔と城壁が完成される。17世紀にベルサイユ宮殿が完成されてから捨てられた姓は工場と倉庫に使われ、今日では博物館として利用されている。

## 2. 特徴

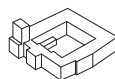


興味深い点は今日の建築で見える建築の再建築オルタナティブ建築の姿をこの城に見かねないという点だ。最初は小さな小屋で開始した建物が膨らみ続け、出、その後は保守で賄うことができず、大々的な再建築が行われる。時代が変わり、防御とは用途が廃棄されて、塔を一部撤去して建物が入るなど一部にわたってまた、再建築が起きたが、従来には、既存の用途で強みとして作用した小さな窓が住居性を保障しなくて王の居所という用途を喪失することになって狭い窓と高い塔だという概念は刑務所を通じて再び使われるようになる。今日も美しい城の景観や日ざしが入らない内部によって博物館として利用されている。

## 3. ACCUMULATION

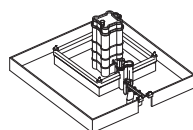
時間の中で建物は既存の用途を失って廃棄されて新築されたりもして、既存の建物に重ねて増築されたりもする。そして同じ建物が他の用途で使われたりする。ビンセン増えた900年の歳月の間、一つの大地の中でまるで一つの都市のように発生し、変わってきた。一部は消えて敷地として残ってあって防御のための城壁と城塔は一部撤去されたが、博物館として使われている今から900年前王のための居所としてスヨドンまでのすべての建物の歴史が一カ所の大地にそのまま残っている。

### 新築



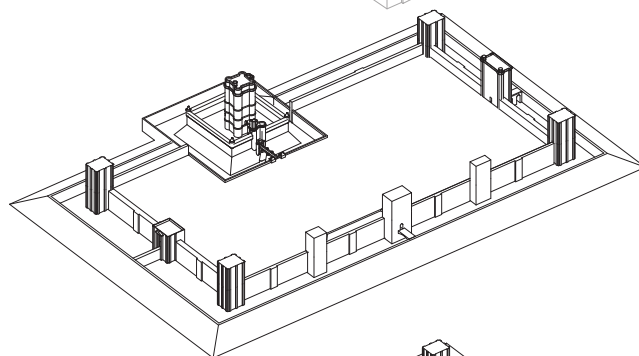
12世紀頃ピンセンヌ森に狩りに向けた小屋に建てられた

### 改築



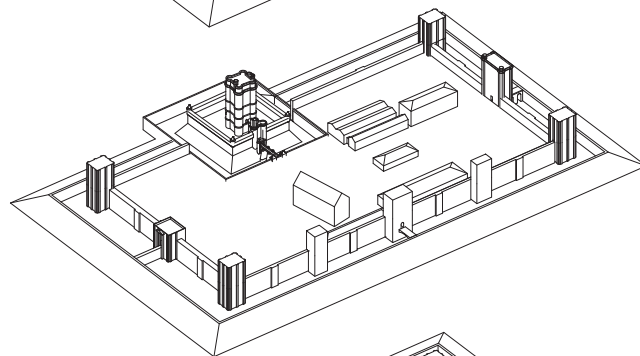
用途の拡張によって、当時欧州の普遍的な性の形に改築された

### 拡張



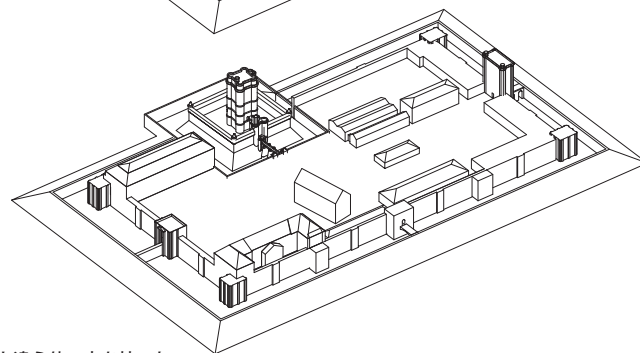
周辺に大きな堀と城壁が建設されて領域が拡張された

### 過密



重要性が高まり、城壁内に様々な施設が建てられた

### 変化



用途の変化により従来の施設の一部が解体され、従来と違う使い方を持つた

Learning from the past: : **Architectural developments of the british museum**

\_a quadrangle building

The core of museum's building was a quadrangle with four wings. It was designed by the architect Sir Robert Smirke in 1832 and completed in 1852. Smirke designed the building in the Greek Revival style, which had become very popular in the late 1700s. The design of the columns and the pediments were a common feature of ancient Greek architecture.

\_The King's Library, Main Entrance, Weston Hall

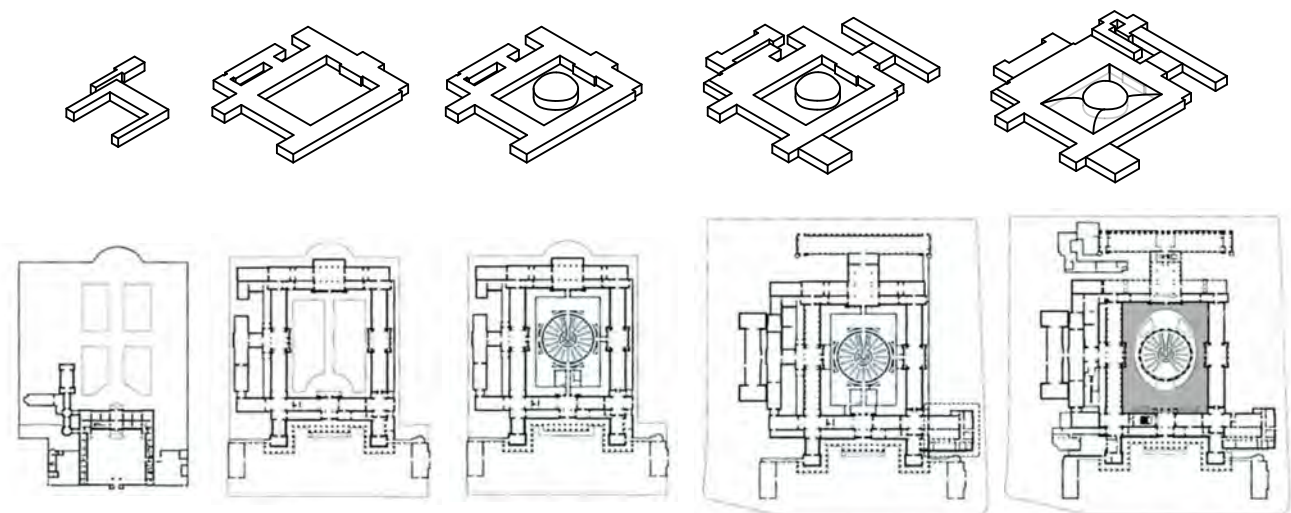
\_Reading Room

The Reading Room, built in 1857, stands at the center of the museum's courtyard. In the original Robert Smirke's design, the courtyard was meant to be a garden. But the Reading Room was built in the courtyard to house the library department of the museum and the garden space was lost.

\_White Wing, King Edward VII galleries, The Duveen gallery

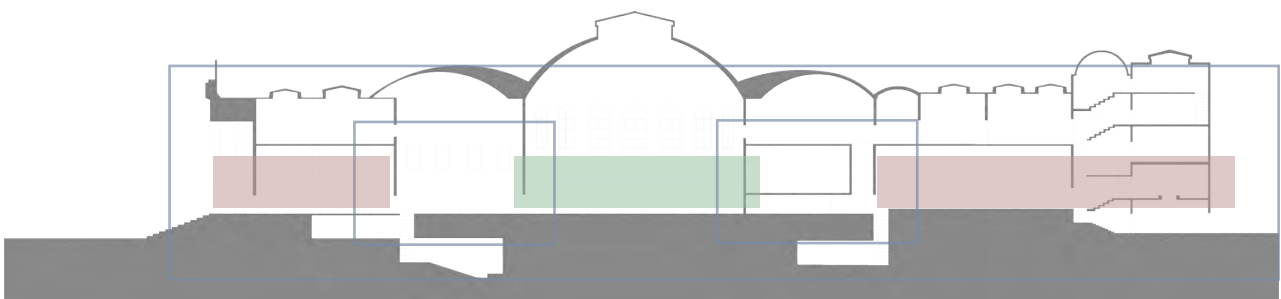
\_Great Court

Designed by Foster and Partners, the Queen Elizabeth II Great Court transformed the Museum's inner space and started to be a indoor public square. The whole area was enclosed by a glass roof. In 1997, the Museum's library department was relocated to the new British Library building and thus it had a chance to open to the courtyard space to public. An architectural competition had three aims - revealing hidden spaces, revising old spaces and creating new spaces.



---

Learning from the past: : **Architectural developments of the british museum**



---

**Another town, another architecture**

The Yodobashi Water purification Plant was Japan's first modern water works with a capacity of 140,000 cubic meter of water per day. Tokyo grew so fast that by 1908, demand already exceeded supplies. Over the years, the facility would be extended several times but the plant was finally shut down in 1968. The area became the home of some of high-rises. Such as the Keio Plaza Hotel and the Tokyo Metropolitan Government buildings.





**Another town, another architecture**

After more than 47 years following the close down, of course it is not possible to find a use for the water purifying plant. Also the location of Western Shinjuku which now is the busiest and the most expensive area maybe in the world does work quite well as a central business district at the city of Tokyo.

However, the place is never human-friendly and feels artificial with those precisely planned square-shaped building blocks. Having an exceptionally big water purifying plant was perhaps less effective use of land but the idea and some facilities were worthy to be remained.

issues I am concerned about:

\_for everyone

\_water, tokyo and balance of cityscape

\_order or disorder

